

資料

賀川豊彦研究雑誌六種総目次（1980～2022）

——『協同思想研究』、『賀川豊彦研究』、『雲の柱』、『賀川豊彦學會論叢』、
『阿波牧舎』、『賀川記念館総合研究所紀要』——

金 丸 裕 一
寺 田 百 花
秋 田 裕 加

はしがき

生誕百周年をひかえた1980年代以降、賀川豊彦研究を主題とした雑誌が続々と刊行された。これらに収録された論考・記事の情報を提供するために、わたくしたちはこの目録を編纂した。周知の通り近代日本において賀川豊彦が活躍した範囲はたいへん広く、したがって彼をめぐる数多くの言説も、様々な媒体を通じて展開してきた経緯がある。書き手をみても、単に学者や専門家だけではなく社会の幅広い層に跨っており、影響力や遺産継承の大きさ、その多様性は極めて興味深い現象である。ゆえに例えば「研究史」を探究しようと試みた場合でも、キリスト教学や宗教学、あるいは歴史学といった古典的学知の枠組みを超えて、実に様々なジャンルの刊行物にそれが散在しているのみならず、およそ「学界」からは距離感があるメディアにも及ぶため、総体としての把握は容易ではなかった。

こうした中で今回とりあげた六種類の雑誌は、賀川豊彦をとりまくテーマを主に扱う意味において兄弟誌と呼べるだろうが、実はもう一つ大きな共通点を指摘しなければならない。いずれも所謂「専門誌」なのではあるが、想定され得る環境の中において、なかなかアクセスが難しい媒体であるという点である。所蔵される図書館も限られており、記事や論考の入手はなかなか難しい。以下、六種類の雑誌の簡単な背景、及び公共図書館や大学図書館での所蔵状況について、少しく立ち入って紹介したい。

壹、『協同思想研究』

この雑誌は、1980年8月に灘神戸生活協同組合の協同思想研究グループによって創刊された。「国立国会図書館サーチ」によれば、創刊号及び第2号は徳島県立図書館に所蔵ありと紹介されているが、他の大学図書館や公共図書館では、未だ所在が確認できない。今回の作業で閲覧した6冊は、全てイエス団賀川記念館（神戸）において保存されている。

非常に個性的な特徴として、執筆者は灘神戸生活協同組合で働きながら学習を継続している

方々であり、また第1号から第3号までは「特集 賀川豊彦」とサブタイトルを明示する姿勢からも窺い知ることができる通り、誌面の多くは賀川に関わる内容によって占められている。第6号以降の刊行状況などは未確認であるが、賀川研究の多様性や実践志向を象徴的に示す刊行物であるため、この目録に採用した次第である。

貳、『賀川豊彦研究』

この雑誌は、関東大震災からの復興を活動の柱に据えた賀川豊彦が東京での拠点とした地に建てられた日本キリスト教団東駒形教会に隣接する一般財団法人本所賀川記念館によって、現在に到るまで刊行され続けている。研究論文に加えて賀川豊彦の志を継承する法人の研修報告なども随所に組み込まれ、実社会における様々な影響力を知ることにも可能となる雑誌である。第23号（1992年）、及び第54号（2008年）には既刊部分の目次が掲載されているものの、それ以降はブラウジング作業の要がある。

所蔵機関は、国立国会図書館本館やキリスト教主義大学の図書館を中心に広がっており、創刊号からまともに閲覧可能な主要図書館は次の通りである。

国立国会図書館東京本館（1-70+）／明治学院大学白金校舎図書館（1-70+）／西南学院大学図書館（1-70+）／立教大学図書館（1-70+）／東京神学大学図書館（1-33, 36-44, 46-60, 62-70+）／同志社大学神学部研究室（1-40, 42-46, 48-70+）／同志社大学今出川図書館（11-70+）／賀川豊彦記念松沢資料館（1-70+）／イエス団賀川記念館（1, 3-7, 9-65, 67, 69-70+）。

参、『雲の柱』

1939年に誕生した雲柱社の系譜を継承する公益財団法人賀川事業団雲柱社は、1982年に社会教育事業の一環として賀川豊彦記念松沢資料館を設立した。この雑誌は初期段階においては賀川やその同労者による文章の再掲などもみられたが、やがて同館が中心となって進める調査研究や社会奉仕の動向を伝える役割が主となる。第30号（2016年）に既刊分の目次が整理されているが、インターネットでの公開には至っていない。

この雑誌もまた、比較的多くの図書館において所蔵されており、最近刊行されたものを含めて通覧が可能な機関は次の通りである。

国立国会図書館東京本館（1-33）／国立国会図書館関西館（17-31）／明治学院大学白金校舎図書館（1-36+）／立教大学図書館（1-36+）／同志社大学人文科学研究所（1-36+）／桜美林大学図書館（1-10, 12-36+）／国際基督教大学図書館（1-20, 12-36+）／賀川豊彦記念松沢資料館（1-36+）／イエス団賀川記念館（1-36+）。

肆、『賀川豊彦学会論叢』

賀川豊彦を取り巻く諸問題をアカデミックな視点から把握せんとして結成された賀川豊彦学会の刊行物であり、研究者によって執筆された論文が多いことが特徴である。だが、意外なことに体系的に所蔵されている機関は少なく、主だったものとして次の三箇所が挙げられるのみである。管見の限り、まだ目次などの整理は行われていないようだ。

国立国会図書館東京本館（1-8, 12-29+）／明治学院大学白金図書館（1-29+）／立教大学図書館

(13-25)／賀川豊彦記念松沢資料館（1, 5, 7, 8, 10-21, 28）／イエス団賀川記念館（1-5, 7-21, 23-29+）。

伍、『阿波牧舎—賀川豊彦記念・鳴門友愛会会誌』

この雑誌は、賀川豊彦が両親没後に引き取られ若き日々を過ごした地において2002年に成立した記念館を管理するNPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会の会誌である。地域社会や賀川と深く関わった関係者からの寄稿も多い。21世紀における賀川「研究」の裾野の広さを物語るメディアの一つといえるだろう。

ただ惜しむらくは、所蔵される機関が限定されている点であろう。管見の限り、比較的まとまって閲覧可能である公共図書館は、以下の通りである。

徳島県立図書館（1-18+）／鳴門教育大学附属図書館（1-18+）／四国大学図書館（1-18+）／徳島文理大学図書館（2-18+）／徳島大附属学図書館（3-18+）／イエス団賀川記念館（2-12, 14-18+）。

陸、『賀川記念館総合研究所紀要』

この雑誌は、社会福祉法人・学校法人イエス団から不定期に刊行されているが、その内容は神戸の賀川記念館によって主催された諸方面に及ぶ講演活動の記録であり、狭義の賀川研究のみならず、その現代における実践・継承や啓発の具体像を示す出版物である。

ただ公共図書館などでの所蔵は確認できず、賀川豊彦記念松沢資料館（1, 3-6+）／イエス団賀川記念館（1-6+）において閲覧するより他、アクセスへの道は開かれていないようだ。

以上で確認した通り、凡そ何らかの面で条件を満たした図書館が身近に無い人々、とりわけ学部生や大学院生で賀川豊彦、乃至はその周辺の諸問題に関心をもって学習を開始したとしても、この目録で紹介する如き「先行研究」を知らずに議論してしまう可能性が高い。そしてこれは、極めて勿体無い現象だといえるだろう。なんとなれば、単に学界や信仰界のみならず、草の根的な広がりをもって着実に継承される賀川「研究」の実相を見落としてしまうことに繋がるからである。

なお今回は探究することができなかったが、例えばイエスの友会による『火の柱』、あるいはコープこうべ生協研究機構（コープこうべ協同学苑）の賀川豊彦研究会がかつて精力的に発行していた「講演録」など、埋もれたままにしておくに惜しい水準を示す先達たちの努力も、何らかの形で再整理する必要があると思う。この総目次は刊行と同時に立命館学術成果リポトジを經由して全文が公開され、また各種検索エンジンなどでも発見されるだろう。情報共有を通じて先人たちの努力を空疎化させない一助となるならば、本作業はその目的を果たしたと考える。これと類似した試みが随所で重ねられ、研究環境の整備が進められることを切に期待したい。

※ ※

凡 例

- 1, 各号について、号数・発行年月日・総頁数を記した。
- 2, これに続いて、著者名・論文（記事）名・掲載頁数を記した。
- 3, 氏名や漢字表記などの誤植については、原文のままとした。
- 4, いわゆる「埋め草」的な記事類は、基本的に採録を省略した。

※ ※

壹, 『協同思想研究』

第1号（1980年8月1日：72頁）

- 増田大成「賀川豊彦と私」1～10頁。
米満弘「『賀川豊彦伝』を読んで」11～26頁。
山崎敏輝「『死線を越えて』に学ぶことば」27～40頁。
山本久美子「妻・賀川ハル」41～44頁。
八田三幸「賀川豊彦触れある記」45～56頁。
古野健治「賀川豊彦と岡本利吉」57～70頁。

第2号（1981年2月15日：61頁）

- 「グラビア」1～6頁。
増田大成「『賀川精神』とは何か」7～22頁。
古野健治「徳島における賀川豊彦」23～26頁。
山崎敏輝「洗礼の時」27～32頁。
山本久美子「竹内雪さんをたずねて」33～37頁。
八田三幸「賀川豊彦触れある記」38～44頁。
米満弘「賀川記念館訪問記」45～47頁。
山本久美子「賀川ハルさんをたずねて」48～57頁。
〔資料〕賀川資料館（東京）について」58頁。

第3号（1981年12月20日：38頁）

- 高村勲「賀川を思う」1頁。
友貞安太郎「賀川豊彦と私」2～7頁。
那須恵子「『化粧と衣裳の心理』」8～10頁。
山崎敏輝「賀川豊彦著『処世読本』に学ぶ」11～12頁。

- 河村修三「川崎・三菱大争議と賀川豊彦—小説『熱い港』を読んで—」13～14頁。
 山添和美「『死線を越えて』を読んで」15～16頁。
 古野健治「江東消費組合と賀川豊彦」17～20頁。
 進藤みゆき「『死線を越えて』を読んで」21～23頁。
 中林泰男「武藤富男著『評伝賀川豊彦』を読んで」24～25頁。
 八田三幸「賀川豊彦触れある記（その3）」26～29頁。
 金井塚春夫「賀川豊彦と立体農業」30～32頁。
 米満弘「隅谷三喜男著『賀川豊彦』を読んで」33～36頁。

第4号（1983年1月10日：118頁）

- 八田三幸「賀川豊彦触れある記—新川から—協同組合への道」1～15頁。
 友貞安太郎「生協運動史の断片」16～41頁。
 河村修三「賀川豊彦とデンマーク（協同組合運動）」42～51頁。
 古野健治「家庭購買組合の歴史」52～65頁。
 山添和美「生協運動誕生の時代背景—日本とヨーロッパの共通点—」66～72頁。
 山崎敏輝「萌芽期の協同思想—協同思想の源流をたづねて—」73～103頁。
 増田大成「日本の共同体における協同思想について」104～116頁。

第5号（1984年2月15日：27頁）

- 河村修三「国民高等学校と協同組合運動」1～4頁。
 古野健治「城西消費組合について」5～9頁。
 山崎敏輝「協同思想の萌芽期 PART II」10～17頁。
 米満弘「『人間として生きること』」18～26頁。

第6号（1985年2月20日：26頁）

- 河村修三「グレントウィと国民高等学校・覚書き」1～5頁。
 古野健治「〈ロバの絵〉考」6～10頁。
 山崎敏輝「萌芽期の協同思想 PART III ドイツ編(1)」11～20頁。
 山添和美「『協同組合地域社会への道』を読んで」21～23頁。
 米満弘「協同組合を考える」24～25頁。

※ ※

貳、『賀川豊彦研究』

第1号（1982年5月30日：22頁）

- 兩宮栄一「賀川精神の客観化」1頁。

横山春一「『賀川豊彦伝』完成に祈りをこめて」2～9頁。

高崎芳輝「賀川研究会雑感」10～11頁。

服部栄「賀川豊彦研究会の歩み」12～22頁。

第2号（1983年7月31日：16頁）

斎藤宏「賀川精神を継承するもの」1頁。

雨宮栄一「賀川の信仰思想への接近」2～7頁。

深田未来生「『賀川には神学がない』という有難さ」8～9頁。

横山春一「賀川豊彦年譜考」10～13頁。

服部栄「賀川豊彦研究文献紹介」14～16頁。

「賀川研究会報告」16頁。

第3号（1983年12月30日：21頁）

高崎芳輝「民衆に視座を据えて」1頁。

深田未来生「人間全体の解放」2～6頁。

金井新二「賀川豊彦の現代的意義」7～11頁。

金子啓一「課題としての賀川豊彦」11～16頁。

山崎宗太郎「人生は奇妙である」17～19頁。

雨宮栄一「新しい賀川研究を目指して」19～21頁。

第4号（1984年5月20日：21頁）

服部栄「宮沢賢治と賀川豊彦」1頁。

横山春一「賀川豊彦における戦争と平和」2～9頁。

吉村静枝「神の国運動で見た賀川豊彦先生」10～11頁。

高崎芳輝「異説・賀川豊彦」12～18頁。

「賀川研究会報告」18頁。

服部栄「賀川豊彦研究文献抄(2)」19～20頁。

第5号（1984年10月15日：20頁）

雨宮栄一「賀川豊彦と田中正造」1頁。

横山春一「阿波自助社と通諭書事件」2～10頁。

菊川兼男「『通諭書』の定本作成について」10～16頁。

黒川泰一「賀川豊彦の医療組合運動」16～20頁。

第6号（1985年2月10日：21頁）

斎藤宏「賀川豊彦理解について」1頁。

深田未来生「福音の種蒔人チャールズ・アレキサンダー・ローガン」2～9頁。

雨宮栄一「賀川豊彦の『神の国』思想」10～17頁。

藤崎盛一「農民愛に燃えて」17～20頁。

第7号（1985年：6月30日：21頁）

高崎芳輝「賀川豊彦の遺した課題」1頁。

小川圭治「賀川豊彦と今日の日本の教会」2～10頁。

中林貞男「生活協同組合運動の基礎」10～13頁。

横山春一「賀川豊彦における贖罪愛」14～21頁。

第8号（1985年10月30日：20頁）

服部栄「賀川豊彦の苦悩」1頁。

金子啓一「賀川豊彦と朝鮮問題」2～8頁。

磯村英一「あえて賀川豊彦に挑む」9～12頁。

雨宮延幸「関東大震災と賀川豊彦」13～19頁。

「賀川豊彦研究会報告」20頁。

第9号（1986年4月30日：19頁）

横山春一「苦難の克服」1頁。

大内三郎「賀川豊彦—日本キリスト教史における特長と意義—」2～8頁。

横川正市「賀川豊彦との出会い」8～12頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と敗戦」12～18頁。

第10号（1986年10月20日：23頁）

斎藤宏「平和を求めて」1頁。

高崎芳輝「賀川豊彦の回心—逢坂元吉郎のそれとの対比」2頁。

瀬谷重治「わが愛師」9～16頁。

雨宮栄一「最近の賀川研究会の歩みより」17～18頁。

服部栄「賀川豊彦の児童観」18～22頁。

第11号（1987年3月20日：22頁）

雨宮栄一「賀川生誕100年を目指して」1頁。

岸英司「『宇宙の目的』理解のために(1)」2～8頁。

土肥昭夫「日本キリスト教史における賀川豊彦の位置と役割」9～17頁。

佐竹千歳「私の回心の記」18～22頁。

第12号（1987年8月15日：22頁）

高崎芳輝「与えた人、賀川豊彦」1頁。

岸英司「『宇宙の目的』理解のために(2)」2～8頁。

熊澤義宣「賀川豊彦の神学思想」9～18頁。

村瀬實「賀川先生と北海道」19～22頁。

第13号（1987年12月20日：23頁）

横山春一「混りない奉仕にそそがれる神の摂理」1頁。

岸英司「『宇宙の目的』理解のために(3)」2～8頁。

野村実「賀川豊彦とアルベルト・シュワイツァー」9～17頁。

緒方彰「私の見る賀川豊彦」18～22頁。

第14号（1988年6月25日：23頁）

服部栄「国際化を考える—賀川豊彦の視点から—」1頁。

雨宮栄一「日本近代史における賀川豊彦と内村鑑三—賀川豊彦生誕100年を記念して—」2～9頁。

金子啓一「賀川豊彦『女性論』とその周辺—キリスト教倫理の立場から—」10～17頁。

内藤多喜雄「聖ことばを实践した賀川豊彦」18～20頁。

実行委員会「賀川豊彦生誕100年記念事業予定」21～22頁。

第15号（1998年12月5日：25頁）

斎藤宏「賀川生誕百年記念事業を終えて」1頁。

横山春一「神戸イエス団時代の賀川豊彦の奉仕生活とそれを凝視した人々(1)」2～14頁。

堀井順次「長嶺子キリスト教開拓団追想—賀川豊彦先生と開拓団—」14～25頁。

第16号（1989年6月10日：23頁）

雨宮栄一「本所賀川記念館創立20周年」1頁。

岸英司「『自然美と土の宗教』における賀川先生の宗教思想」2～9頁。

西村虔「賀川研究の問題点と将来」9～17頁。

工藤美代松「賀川先生との出会いの賜物」17～19頁。

花盛勲一「横山春一先生を偲びて」19～21頁。

雨宮延幸「横山春一氏の絶筆」21～23頁。

第17号（1989年10月31日：24頁）

高崎芳輝「賀川豊彦の信仰の継承について」1頁。

大江健三郎「信仰を持たない者の側から何ができるか」2～16頁。

雨宮栄一「初期『イエスの友会』について」17～24頁。

第18号（1990年5月25日：23頁）

服部栄「志としての平和」1頁。

西村虔「賀川豊彦の贖罪観」2～9頁。

熊澤義宣「賀川豊彦と山室軍平」10～17頁。

山崎宗太郎「賀川豊彦の救らい運動」18～23頁。

第19号（1990年8月15日：25頁）

斎藤宏「迷える一匹を尋ねて」1頁。

金子啓一「賀川豊彦の『神の国運動』を探る一経過・理念・行方から」2～15頁。

上地ちづ子「賀川豊彦の万年筆・今井よねの福音芝居活動に至る軌道」16～25頁。

第20号（1991年5月20日：22頁）

高崎芳輝「与えた人・賀川豊彦の教会形成」1頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と木立義道」2頁～15頁。

服部栄「賀川豊彦における社会事業思想の形成(一)」16～22頁。

第21号（1991年11月15日：21頁）

雨宮栄一「巻頭言 木崎農民福音学校と賀川豊彦」

岸英司「賀川豊彦に学ぶ(I)―実践・思想・信仰から―」1～8頁。

大谷恒彦「書評『河野進詩集』」9～10頁。

服部栄「賀川豊彦における社会事業思想の形成(二)」11～20頁。

第22号（1992年3月31日：20頁）

斎藤宏「巻頭言 愛の人・賀川豊彦」1頁。

岸英司「賀川豊彦に学ぶ(II)―実践・思想・信仰から―」2～7頁。

原島正「賀川豊彦の宇宙観―内村鑑三との対比―」8～19頁。

第23号（1992年11月30日：19頁）

雨宮栄一「『賀川豊彦研究』刊行10年を迎えて」1頁。

大里知子「賀川豊彦のセツルメント運動(I)―本所基督教産業青年会を中心として―」2～15頁。

「賀川豊彦研究創刊十年総目録」16～18頁。

第24号（1993年3月31日：23頁）

高崎芳輝「巻頭言 賀川豊彦研究と現代の社会的状況」1頁。

大里知子「賀川豊彦のセツルメント運動(II)―本所基督教産業青年会を中心として―」2～22頁。

第25号（1993年9月5日：16頁）

雨宮栄一「巻頭言 精神のない専門人」1頁。

古屋安雄「近代日本キリスト教史における賀川豊彦」2～10頁。

岸英司「賀川豊彦に学ぶ(III)―実践・思想・信仰から―」11～15頁。

第26号・第27号合併特集号 賀川豊彦と中ノ郷信用組合 (1994年5月30日:45頁)

雨宮栄一「巻頭言 賀川豊彦と木立義道」1頁。

森静朗「中ノ郷信用組合の形成と現代的意義」2～44頁。

第28号 (1994年10月10日:25頁)

服部栄「巻頭言 現実主義に抗して」1頁。

雨宮栄一「賀川純一のことども—阿波自助社とのつながり—」2～9頁。

金子啓一「賀川豊彦を読み直す—いま、ここの『神学』として」10～24頁。

第29号 (1995年2月25日:22頁)

斎藤宏「巻頭言 世界共同体めざして」1頁。

雨宮栄一「賀川純一のことども(二)—生家磯部家について—」2～7頁。

高崎芳輝・服部 栄「中山真多良先生の生涯」8～13頁。

須賀誠二「中山真多良先生の説教」13～14頁。

守安伸広「中山先生の思い出」14～15頁。

田島伸悟「宣教者・中山真多良」15～16頁。

徳田隆二「中山牧師に学んだこと」16～17頁。

中村淳一「中山先生から学んだこと」18～20頁。

高崎芳輝「中山真多良先生と私」21～22頁。

第30号 (1995年7月30日:22頁)

服部栄「セツルメント運動に学ぶ」1頁。

雨宮栄一「幼少期の賀川豊彦」2～11頁。

米沢和一郎「賀川豊彦書誌—続編—」(1)～(11)

第31号 (1996年2月20日:24頁)

高崎芳輝「賀川豊彦の人間味」1頁。

雨宮栄一「徳島中学時代の賀川豊彦(1)」2～15頁。

米沢和一郎「賀川豊彦の戦時下における侵略謝罪の意義」16～24頁。

第32号 (1996年7月7日:22頁)

服部栄「賀川豊彦先生への手紙」1頁。

雨宮栄一「徳島中学時代の賀川豊彦(2)」2～16頁。

雨宮延幸「クリスチャンの顔の人・工藤美代松」17～21頁。

第33号 (1996年10月31日:26頁)

斎藤宏「裳裾をひっからけて」1頁。

森静朗「賀川豊彦と中国」2～13頁。

雨宮栄一「明治学院大学の賀川豊彦(1)」14～26頁。

第34号（1997年5月10日：18頁）

高崎芳輝「巻頭言 日本の武道と賀川豊彦」1頁。

熊澤義典「賀川豊彦とエキュメニカル運動」2～10頁。

金子啓一「〈退行〉を方法とする賀川豊彦『研究』」11～17頁。

第35号（1997年9月30日：18頁）

服部栄「巻頭言 社会福祉思想の変化の中で」1頁。

岸英司「賀川豊彦宗教思想の現代的意義」2～6頁。

雨宮栄一「明治学院時代の賀川豊彦(2)―矛盾録をめぐって―」7～18頁。

第36号（1998年1月31日：27頁）

斎藤宏「巻頭言 ジョン・ラスキンと賀川豊彦」1頁。

倉橋克人「賀川研究をめぐる一提言―金子啓一氏の所論に寄せて―」2～11頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と神戸・新川(1)―人生問題―生存価値論をめぐって―」12～26頁。

第37号（1998年5月25日：26頁）

服部栄「巻頭言 ガイドラインと平和憲法」1頁。

金子啓一「『賀川豊彦』をどのように〈読む〉か―私のアングル 再考」2～11頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と神戸・新川(2)―賀川豊彦と島崎藤村」12～25頁。

第38号（1999年4月20日：27頁）

斎藤宏「巻頭言 ルカ伝宣言」1頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と神戸・新川(3)」2～16頁。

金井信一郎「賀川豊彦研究講演『日本基督教伝道史における賀川豊彦と金井為一郎』」17～26頁。

第39号（1999年10月10日：27頁）

高崎芳輝「巻頭言 賀川豊彦の再確認」1頁。

雨宮栄一「賀川豊彦と大杉栄」2～19頁。

「『賀川豊彦研究』一覧」20～26頁。

第40号（2000年4月1日：26頁）

服部栄「巻頭言 再び賀川先生への手紙」1頁。

米沢和一郎「魂の外交―賀川豊彦 宗教使節の軌跡―」2～9頁。

雨宮延幸「アメリカを旅して―賀川の足跡をたずねて―」10～26頁。

第41号（2000年10月15日：26頁）

- 服部 栄「巻頭言 賀川先生への手紙 Ⅲ」1頁。
雨宮栄一「説教『賀川豊彦』—よきサマリア人として—」2～9頁。
賀川純基「詩人としての賀川豊彦」10～24頁。

第42号（2001年5月20日：23頁）

- 斎藤宏「巻頭言 贖罪愛の実践」1頁。
鵜沼裕子「賀川豊彦の残したもの—その継承に関する一私見」2～14頁。
雨宮栄一「なぜ賀川を大学で講義するのか」15～19頁。
戒能信生「賀川研究会の一年の歩み」20～22頁。

第43号（2001年11月30日：16頁）

- 服部栄「賀川先生への手紙 Ⅵ」1頁。
倉橋克人「日本キリスト教史における賀川評価の課題—その神学的評価をめぐって」2～13頁。
倉橋克人「賀川豊彦関連研究論文一覧」14～15頁。

第44号（2002年7月20日：42頁）

- 服部栄「巻頭言 原点へかえろう」1頁
米沢和一郎「賀川豊彦資料案内番外編—私見パーソナル・ミュージアム黒書」2～41頁。

第45号（2002年12月20日：31頁）

- 雨宮栄一「今日の賀川研究の課題」1～6頁。
戒能信生「日本キリスト教史における賀川豊彦の位置」7～9頁。
金子啓一「『賀川豊彦』のもうひとつの読み」10～15頁。
倉橋克人「今、『賀川豊彦研究』に求められていること」16～22頁。
服部栄「賀川豊彦研究～現場からのアプローチ～」23～25頁。
雨宮延幸「賀川豊彦研究二七年」26～29頁。
斎藤宏「『賀川豊彦研究』44号 米沢和一郎『賀川豊彦資料館案内 番外編』を読んで」30～31頁。

第46号（2003年6月30日：23頁）

- 服部栄「『重荷と喜びと』—賀川先生への手紙 V」1頁。
古屋安雄「賀川豊彦の日本伝道論」2～17頁。
杉浦秀典「賀川豊彦記念松沢資料館の現状と展望(1)」18～22頁。
戒能信生「編集後記」23頁。

第47号（2004年6月26日：25頁）

- 戒能信生「巻頭言 偉人の時代は終わった？」1頁。

雨宮栄一「賀川豊彦とその時代 賀川豊彦と結婚 はる夫人のことども(1)」2～12頁。
 杉浦秀典「賀川豊彦記念・松沢資料館の現状と展望(2)」13～17頁。
 山林由季「『青春の賀川豊彦』を読んで」18～19頁。
 小磯亮平「『青春の賀川豊彦』を読んで」19～21頁。
 斎藤宏「追悼・賀川純基さんを天に送る」22～24頁。
 戒能信生「編集後記」25頁。

第48号（2004年11月21日：31頁）

服部栄「巻頭言 社会福祉実践におけるスピリチュアルティ」1頁。
 雨宮栄一「賀川豊彦の結婚 はる夫人のことども(2)」2～14頁。
 加山久夫「賀川豊彦と『神の国』」15～22頁。
 杉浦秀典「賀川豊彦記念・松沢資料館の現状と展望(3)」23～28頁。
 松永源一郎「雲柱社のこれからの課題—賀川の思想と実践にならって」29～30頁。
 戒能信生「編集後記」31頁。

第49号（2005年6月15日：63頁）

鶴沢匡子「巻頭言 東向島児童館管理委託を受けるまで」1頁。
 雨宮栄一「賀川豊彦のその時代3—暗い谷間の賀川豊彦」2～16頁。
 遊口親之「現代に生きる賀川豊彦」17～35頁。
 杉浦秀典「資料館散策・松沢資料館所蔵 資料紹介①」36～38頁。
 雨宮延幸「私の歩んできた道」39～57頁。
 吉岡恵「現場からの報告・児童館と子ども家庭支援センター併設における実践」58～62頁。
 戒能信生「編集後記」63頁。

第50号（2006年1月29日：59頁）

服部栄「巻頭言『社会福祉法人の行方』」1頁。
 雨宮栄一「暗い谷間の賀川豊彦(2)」2～15頁。
 杉浦秀典「資料館散策・松沢資料館所蔵資料紹介②」16～22頁。
 雨宮延幸「私の歩んできた道②」23～32頁
 芹沢政子・玉谷真吾・萩木綿子・西田麻紀「読書レポート『貧しい人々と賀川豊彦』を読んで」
 33～41頁。
 橋本聡司・木内瑠美・佐々木舞子「合同研修会報告」42～50頁。
 戒能信生「満州基督教開拓団関係資料年表」51～58頁。
 戒能信生「編集後記」59頁。

第51号（2006年8月27日：59頁）

斎藤宏「巻頭言『賀川豊彦を継承する者』」1～4頁。
 金子啓一「課題としてのカガワ・トヨヒコ」5～13頁。

加山久夫「『神の国運動』としての賀川豊彦への生涯」14～19頁。

山本修「賀川が目指した人間解放への道」20～24頁。

雨宮栄一「賀川豊彦三部作を終了して」25～28頁

杉浦秀典「資料館散策③ 『松沢資料館所蔵資料紹介』」29～34頁。

雨宮延幸「私の歩んできた道③ 地域医療に専念して」35～44頁。

加藤輝勢子「フレンドリープラザ東向島児童館の活動」45～49頁。

戒能信生「満州基督教開拓団関係第一次資料一覧」50～58頁。

戒能信生「編集後記」59頁。

第52号（2007年6月1日：55頁）

戒能信生「巻頭言『麻薬中毒者教護会のこと』」1頁。

雨宮延幸「私の歩んできた道④ 本所賀川豊彦記念館の出發 神と人にと支えられて」2～18頁。

雨宮栄一「李泳禧氏からの手紙」19～25頁。

杉浦秀典「資料館散策④ 演劇『死線を越えて』と関連資料」26～32頁。

網中健志「港南子ども中高生プラザの活動」33～39頁。

小島功一・千葉小苗・増渕順・大熊智恵「読書レポート『暗い谷間の賀川豊彦』を読んで」40～49頁。

針谷治・柴田里美「合同研修会報告」50～54頁。

戒能信生「編集後記」55頁。

第53号（2008年6月1日：56頁）

服部栄「巻頭言『光の園保育学校80年の年に』」1頁。

阿部志郎「合同研修会講演『半分こをして、小さいほうを取る生き方へ』」2～21頁。

大須賀靖子・郷瑠奈・遠藤憲一・中代智子「合同研修会報告『阿部先生の講演を聴いて』」22～28頁。

浜田直也「中国語版『愛の科学』著者新序、訳者序について」29～45頁。

杉浦秀典「資料館散策⑤ 明治学院大学付属図書館賀川豊彦文庫『ファール昆虫記』」46～50頁。

高橋宏巳・針谷治・伊神絵梨「読書レポート『神と人にと支えられて』を読んで」51～55頁。

戒能信生「編集後記」56頁。

第54号 特別号（2008年7月27日：66頁）

雨宮延幸「私の歩んできた道」1～56頁。

—少年時代から敗戦まで— 1～19頁。

—東京のイーストエンドで— 20～29頁。

—地域医療に専念して— 30～39頁。

—本所賀川記念館の出發 神と人にと支えられて— 40～56頁。

『賀川豊彦研究』総目次（創刊号～54号）57～65頁。

戒能信生「編集後記」66頁。

第55号（2009年4月20日：86頁）

戒能信生「巻頭言『イエスに倣う人』」1頁。

戒能信生「故・雨宮延幸告別式奨励」2～6頁。

雨宮栄一「追悼・雨宮延幸本所賀川記念館名誉理事長 弔詞」7～9頁。

鵜澤匡子「追悼・雨宮延幸本所賀川記念館名誉理事長 弔詞」9～13頁。

服部栄「追悼・雨宮延幸本所賀川記念館名誉理事長 雨宮先生の感謝を決意」14～17頁。

雨宮大朔「追悼・雨宮延幸本所賀川記念館名誉理事長 父の葬儀に際し」17～21頁。

新澤誠治「2008年度合同研修会（9月28日）主題講演『賀川豊彦を出発点として』—私の歩んだ50年の道—」22～64頁。

鈴木美緒・今井美智・佐々木奈津江・佐々木舞子・大塚達也・中尾裕紀子・渡部綾子・堀江美恵子「合同研修会レポート」65～76頁。

たなかとしひろ「詩稿『泥まみれの信仰—賀川豊彦』」77～85頁。

「本所賀川記念館創立40周年プログラム」85頁。

戒能信生「編集後記」86頁。

第56号（2010年2月28日：48頁）

雨宮栄一「巻頭言『本所賀川記念館創立40周年を迎えて』」1頁。

戒能信生「創立40年記念礼拝説教『寝ずの番をする神』」2～7頁。

本所賀川記念館創立40周年記念事業報告

鵜沢米子「財団法人本所賀川記念館創立40周年記念会」8～10頁。

伊東寛「三館合同記念ハイキング」10～11頁。

加藤輝勢子「サマーキャンプ40周年拡大サマーキャンプ」12～14頁。

深田未来生「合同研修会講演『テント運動を導く神』—賀川豊彦と青年たちの祈りと汗が生んだ本所基督教産業青年会—」15～30頁。

高田美奈・富永裕美・池田桃子・門崎彩・谷田部智子・伊東慎吾・松崎隆治「合同研修会レポート」31～39頁。

鵜沢米子・針谷治・橋本聡司「賀川豊彦研究会と賀川ゼミ報告」40～47頁。

戒能信生「編集後記」48頁。

第57号（2011年2月27日：74頁）

鵜沢米子「巻頭言『本所賀川記念館の目指す道は』」1頁。

今関公雄「合同研修会・講演要旨『福祉の土台』」3～9頁。

今井美也子・佐藤愉里・砂辺強土・信田哲・相澤美紀子・池田咲子・中田彩・田中沙里・尾崎雄祐「合同研修会レポート」10～21頁。

加藤輝勢子「再開した賀川研究会」22～24頁。

加藤輝勢子・橋本聡司「農村留学から受けた恩恵に感謝して」25～34頁。

杉浦秀典「資料館散策⑥ 『訪米平和使節団』 夢の痕」35～44頁。

戒能信生「木俣敏終戦日記」45～73頁。

戒能信生「編集後記」74頁。

第58号 (2012年3月18日: 117頁)

服部榮「巻頭言『社会福祉実践のエートスの形成を目指して』」1頁。

布施英雄「合同研修会講演『下町のセツルメント活動の歴史』」2～17頁。

永井寛子・高橋宏巳・秋山裕子・小野良平・松本新・上村翠・清水優子・川上裕大・猪尾志吉・尾崎雄祐・福澤真衣子「合同研修会レポート」18～32頁。

静野健一・佐藤奈緒子・針谷治「児童館実践レポート②『港南子ども中高生プラザの歩み～プラリバまつりから』」33～43頁。

網中健志「高輪子ども中高生プラザ開館報告」44～48頁。

戒能信生「第20回全国ボランティアフェスティバル分科会開演『賀川豊彦と関東大震災』—日本のボランティア活動の原点について」49～65頁。

杉浦秀典「資料館散策⑦ 賀川豊彦の『パール・バック批評』」66～78頁。

戒能信生「愛の園保育学校のこと」79～84頁。

戒能信生「深田種嗣『宗教部日誌』①」85～115頁。

「編集後記」116～117頁。

第59号 (2013年1月10日: 112頁)

加藤輝勢子「巻頭言『今もできることを』」1頁。

岸川洋治「合同研修会開演『社会福祉施設として大切にしたいことと職員に求められるもの—セツルメントの思想と実践の継承』」2～11頁。

池田洪作・佐藤朱美・河井敦子・駒井成美・丸山淳一・青木美里・寺西瑠美・谷綾乃・藤本紘子・河田ともみ・酒本かほる・星野遊・直井美雪「合同研修会レポート」12～27頁。

戒能信生「さがみ愛育会のルーツをめぐって」28～37頁。

松岡俊彦「紙芝居 さがみ愛育会設立者松岡キンの半生から」38～43頁。

松岡俊彦「創設者松岡キンが賀川豊彦に学んだもの」44～60頁。

戒能信生「東京下町伝道の歴史 資料から見えるその足跡と課題」61～79頁。

戒能信生「深田種嗣『宗教部日誌』②」80～105頁。

深田未来生「解説『宗教部日誌』が描き出す群像」106～111頁。

「編集後記」112頁。

第60号 (2013年8月11日: 75頁)

戒能信生「巻頭言『関東大震災の後に起きたこと』」1頁。

鶴沢匡子「実践レポート 配食ボランティアグループ『コスモス会』のこと」2～9頁。

加藤輝勢子「地域とつながる地域連絡懇談会」10～12頁。

伊東寛「港南子ども中高生プラザ新館紹介」13～17頁。

網中建志「最近の賀川研究会の歩み」18～20頁。
服部榮「神に引きずり出されて～私の歩んできた道～①」21～27頁。
戒能信生「木立義道日誌『神の籐の吹ける時』」28～48頁。
木立義也「木立義道日誌に寄せて」49～50頁。
戒能信生解説「関東大震災直後の被災者住宅実測図」51～59頁。
戒能信生解説「本所基督教青年會小史」60～66頁。
伊丹謙太郎「本所基督教産業青年會庶務綴目録作成について①」67～73頁。
「編集後記」74～75頁。

第61号（2014年3月23日：139頁）

斎藤宏「最も小さい者との関わり」1頁。
菅原哲男「合同研修会講演『隣の人』とは」2～13頁。
林美砂子・石垣雅美・相沢美紀子・西川彩・富永裕美・大城綾夏・高井譲・石田美保・久保田幸義・近藤祥「合同研修会レポート」14～28頁。
寺西瑠美・相沢美紀子「東向島児童館における乳幼児活動への取り組み」29～39頁。
服部榮「神に引きずり出されて～私の歩んできた道～②」40～46頁。
森田明彦「子どもの権利のパイオニア賀川豊彦」47～66頁。
戒能信生「関東大震災救援活動における吉野作造，賀川豊彦，末広巖太郎」67～78頁。
杉浦秀典「賀川豊彦の小説 全集未収録作品『天国街道』について」79～90頁。
戒能信生解説「資料 本所基督教産業青年會庶務日誌① — 1974年10月19日～1925年6月12日」91～118頁。
戒能信生解説「資料 都市に於ける住宅問題 本所における不良住宅調査」119～127頁。
伊丹謙太郎「資料 本所基督教産業青年會庶務綴目録②」128～137頁。
「編集後記」138～139頁。

第62号・63号合併号（2015年3月1日：181頁）

網中建志「巻頭言『今でも出来ること』」1～2頁。
「合同研修会発題『未来を生きる子どもたちとともに』」3～28頁。
鯨岡茜・浅野まりな・近藤祥・信田哲兵・新谷貴幸・成田成美・軽部つかさ・塗谷純一・菊池研・坂田明香里・齋藤竜介「合同研修会発題『未来を生きる子どもたちと共に』研修レポート」29～42頁。
「資料・合同研修会のあゆみ（1987～2014年）」43～44頁。
雨宮栄一・松本祥子他「実践レポート⑤『日本語教室の歩み』」45～59頁。
服部榮「神に引きずり出されて 私の歩いてきた道③」60～67頁。
久保田幸義「賀川研究会報告」68～70頁。
金井新二「賀川豊彦の目指したもの」73～79頁。
杉浦秀典・山田祥一「共用データベースの運用実績と課題」80～95頁。
松野高久「賀川豊彦『人間建築論』の建築家・清家清への影響」96～118頁。

戒能信生解説・校訂「本所基督教産業青年会庶務日誌②」119～144頁。

戒能信生解説・校訂「木立義道『凡人録』145～161頁。

戒能信生「本所基督教産業青年会の土地について資料とメモ」172～179頁。

「編集後記」180～181頁。

第64号（2016年7月1日：65頁）

酒井薫「巻頭言『前への人、賀川豊彦』」1頁。

坪井節子「講演『子どもたちに寄り添う』」2～24頁。

鵜野（加藤）加納子・大須賀靖子・中山羽葉・新谷貴幸・岩田真知・石井ちはる・小野花・宇田川美紗・井上笑花・佐藤奈緒子・萩野将「研修レポート 講演『子どもたちに寄り添う』を聞いて」25～37頁。

服部榮「神に引きずり出されて 私の歩んできた道④—明治学院大学時代」38～43頁。

網中建志「スタディ&ワーク in 宮城 実践報告」44～48頁。

加藤輝勢子「被災地支援ボランティア研修報告」49～51頁。

田中敏弘「三浦清一牧師と賀川豊彦」52～53頁。

網中建志「『賀川豊彦』（隅谷実喜男著）」54頁。

佐々木奈津絵「『賀川ハルものがたり』（鍋谷由美子著）」55頁。

杉浦秀典「賀川豊彦全集付録 月報解説①」56～65頁。

第65号（2017年4月1日：70頁）

加藤輝勢子「巻頭言『鵜澤米子さんを偲んで』」1～2頁。

服部榮・雨宮栄一・戒能信生・寺内清子・宮路真知子・白石義基「特集『追悼 鵜澤米子さん』」3～10頁。

佐藤真史「講演『つながること・よりそうこと～被災地支援を通して～』」11～26頁。

櫻井もも・綿貫美穂・伊藤琴・岩田真知・御代川由佳・村田京子・工藤陽子・宇田川美紗・高橋泰輔・吉田裕亮・榎みどり・鈴木悠太「研修レポート 講演『つながること・よりそうこと～被災地支援を通して～』を聞いて」27～39頁。

服部榮「神に引きずり出されて 私の歩んできた道⑤—本所賀川記念館で働く」40～46頁。

網中建志「賀川研究会報告『青春の賀川豊彦』（雨宮栄一著）」47～48頁。

伊藤寛「東駒形コミュニティ会館の紹介」49～50頁。

伊丹謙太郎「寄稿『昭和偉人伝・賀川豊彦』記録と解釈」51～57頁。

杉浦秀典「資料館散策 大正期における賀川の出版物と忘れられた小作品の紹介 小説『一兵卒の告白 マリマタヤのヨセフの墓への途上にて』の翻刻」58～69頁。

第66号（2018年4月1日：66頁）

網中建志「巻頭言『これまでの振り返って』」1～2頁。

酒井薫「礼拝説教『配慮し合える集団へ』」3～6頁。

『『実践から学ぶ—保護者対応・気になる子どもへの支援・子どもに関わるスキル・地域との関わ

り合い』施設からの実践報告」7～30頁。

斎富知江・田中沙里・須藤文・氏家愛子・御代川由佳・金井紀子・渡辺竜哉・内野夏希・斎藤碧里・小島隼人・山本春花・寺西瑠美「『実践報告から学ぶ』に参加して」31～46頁。

服部榮「神に引きずり出されて 私の歩んできた道⑥本所賀川記念館で働く その2」47～56頁。

久保田幸義「賀川研究会『賀川豊彦と現代教会』問題に関する討議資料第二部」57～59頁。

伊丹謙太郎「書評『賀川豊彦と明治学院 関西学院 同志社』60～66頁。

第67号（2019年3月15日：85頁）

伊東寛「巻頭言『50周年を前に』」1～2頁。

酒井薫「礼拝説教 大切なのは内？ 外？」3～5頁。

「『こども食堂の取り組み課題から学ぶ』実践者からの報告」6～32頁。

川口裕紀子・新井真麻・鈴木健明・池田公介・山口貴大・小野萌子・内野夏希・中野博光・早野夏海・網中健志・廣田耕一・川島克之「『こども食堂の取り組み課題から学ぶ』に参加して」33～49頁。

服部榮「神に引きずり出されて 私の歩んできた道⑦ 最終回 本所賀川記念館で働く その2」50～66頁。

清野健一「東向島児童館分館のご紹介と運営の中から見えてきたこと」67～68頁。

加藤輝勢子「賀川豊彦生誕130周年講演会に参加して」69～70頁。

横江卓「第4回賀川豊彦シンポジウムに参加して」71頁。

橋本聡司「賀川五館連絡議会参加報告」72～75頁。

増淵順「賀川研究会報告『貧しい人々と賀川豊彦』」76頁。

伊丹謙太郎「記録と解釈—知恵泉『人の役に立つには 社会事業家 賀川豊彦』」77～84頁。

第68号（2020年3月15日：72頁）

橋本聡司「巻頭言『賀川精神を継承すること』」1～2頁。

酒井薫「礼拝説教 賜物としての精霊」3～5頁。

莊保共子「主題講演『こどもと保護者に寄り添う』とは」6～14頁。

鈴木亜優美・山富碧巳・鈴木健明・高橋竜太・伊藤匠巳・石森有香・渡辺竜哉・星野操・内野夏希・木内菜央・鈴木友和・加藤大智・寺西瑠美「研修レポート 映画『さとにきたらええやん』の実践に学ぶ」15～30頁。

杉浦秀典「資料館散策 賀川豊彦資料紹介『世界連邦日本国会委員会』創設のきっかけを与えた一通の手紙～英国議会下院議員 ミリントンからの書簡～」31～40頁。

伊丹謙太郎「賀川豊彦と農村、そしてデンマーク」41～50頁。

「特集 追悼 雨宮栄一さん」51頁。

服部榮「雨宮先生からいただいたもの」52～57頁。

加藤輝勢子「雨宮栄一氏を偲んで」57～58頁。

戒能信生「雨宮栄一著作目録」(59)～(72)頁。

第69号（2021年3月20日：29頁）

- 藤輝勢子「巻頭言『いま、賀川豊彦なら何をするか？』を問うて仕事に向き合う」1～2頁。
 宮路真知子「関東大震災100年を前に 本所賀川記念館改築を前に思うこと」3～4頁。
 伊藤寛「墨田区立ひきふね図書館特別資料展示一本所賀川記念館の歴史」5頁。
 杉浦秀典「資料館散策 火の柱掲載 巻頭言『神の国運動の本質』」6～14頁。
 川島克之「賀川研究会報告 賀川研究会の活動～光の園保育学校の生い立ちについて」15～28頁。

第70号（2022年3月20日：63頁）

- 高橋宏巳「巻頭言『労苦と知恵』」1～2頁。
 酒井薫「礼拝説教『危機への対応』」3～6頁。
 東向島児童館・文化児童館・押上保育園子育てひろば「実践報告『賀川の細微者への視点～子どもたちにどう向き合うのか？』」7～25頁。
 服部榮・川島克之・岡崎誠・星野操・八重田裕一郎・加藤麻衣・岩澤和樹・伊東慎吾・堀口廣司・加藤輝勢子・網中健志・橋本聡司・増渕順・伊藤寛・高橋宏巳・清野健一「研修レポート『賀川の細微者への視点～子どもたちにどう向き合うのか？』」26～47頁。
 浜田直也「『藤岡長和宛与謝野寛書簡』と『西村伊作宛藤岡長和書簡』に関する一考察」48～57頁。
 杉浦秀典「資料館散策 賀川豊彦資料紹介 SP レコード収録 賀川豊彦講演録『恋愛と自由』大正十一年ニッポンノフォン」58～62頁。
 横江卓「賀川研究会報告」63頁。

※ ※

参. 『雲の柱』

復刊第1号（1983年11月1日：64頁）

- 賀川豊彦「神に溶け行く心」1～14頁。
 村島婦之「雲の柱十九年私史」15～25頁。
 横山春一「賀川豊彦の文献とその探求」26～36頁。
 末広栄司「わたしと賀川豊彦—永遠の乳房」37～41頁。
 「座談会『新川に集った人達』」42～45頁。
 深田未来生「資料館収蔵庫—探検と散策—」46～49頁。
 武藤富男「松沢資料館募金あれこれ」50～56頁。
 「資料館だより—松沢アルヒーフ」57～61頁。
 「賀川研究グループ紹介 灘神戸生協協同思想研究会」62～64頁。

第2号（1984年12月1日：64頁）

- 賀川豊彦「星より星への通路」1～7頁。
 横山春一「賀川豊彦における召命と献身」8～18頁。
 「『雲の柱』第一号の差別問題記事について」19頁。
 「資料 イエスの支第一回修養会」20～22頁。
 「座談会 本所に集った人達」23～27頁。
 郡山静子「私と賀川豊彦」28～42頁。
 矢島浩「賀川研究一年生」43～51頁。
 武藤富男「戯曲『死線を越えて』について」52～58頁。
 「資料館だより」59～61頁。
 「研究グループ紹介 本所賀川研究会」62～64頁。

第3号（1985年4月1日：64頁）

- 賀川豊彦「人及び人の子としてのイエス」1～23頁。
 篠崎恭久「賀川豊彦論」24～28頁。
 「資料 賀川豊彦初期資料（日記・論文）」29～31頁。
 安藤舜二「蒲郡の賀川先生」32～33頁。
 「座談会 四貫島に集まった人達」34～44頁。
 岡崎一「賀川豊彦と土井晩翠」45～51頁。
 佐藤道博「わが信仰の再燃者として」52～54頁。
 「資料館だより」55～58頁。
 「研究グループ紹介(3)」59～64頁。

第4号（1985年10月1日：64頁）

- 賀川豊彦「赤ん坊の頬べた」1～5頁。
 深田未来生「誰が動いているのだ これ この手 魂の彫刻」6～11頁。
 賀川豊彦「保険制度の協同組合化を主張す」12～20頁。
 勝部欣一「人生賀川先生のきれぎれのおもい」21～26頁。
 「資料 賀川豊彦行動記録」27～28頁。
 三宅恵子「生協運動のはざまより」29～32頁。
 米沢和一郎「先導者賀川豊彦と秋田」33～39頁。
 「諸説 アレ・コレ!？」40頁。
 「座談会 馬見に集まった人達」41～46頁。
 斉藤宏「内村鑑三と賀川豊彦の出会い」47～49頁。
 「資料館だより」50～56頁。
 「研究グループ紹介(4)」57～61頁。
 「亜麻糸」62～64頁。

第5号（1986年11月1日：64頁）

- 賀川豊彦「自由と文化」1～4頁。
横山春一「賀川豊彦と農民福音学校」5～16頁。
賀川豊彦「農村設計と精神生活」17～26頁。
「資料 行動記録」27～30頁。
龍沢トヨ「わたしと賀川豊彦」31～35頁。
「座談会 高根に集まった人達」36～42頁。
青柳隆「武蔵野と私」43～47頁。
中野美代「植生操先生の保育の思い出」48～51頁。
金子益雄「『太陽を射るもの』像発見の記」52～56頁。
「資料館だより」57～61頁。
「研究グループ紹介」62～63頁。
「亜麻糸」64頁。

第6号（1987年10月1日：64頁）

- 賀川豊彦「イエスの日常生活」1～7頁。
賀川豊彦「貧民窟十年の経験」8～21頁。
沖野岩三郎「日本基督教会の新人と其事業」22～34頁。
「資料 岩手県摺沢村資料リスト」35～38頁。
牧野仲造「わたしと賀川豊彦」39～42頁。
「三愛塾を偲ぶ会」43～52頁。
米沢和一郎「“賀川の万年筆達”の仕事」53～57頁。
「資料館だより」58～60頁。
「研究グループ紹介(6)」61～63頁。
「亜麻糸」63～64頁。

第7号（1988年6月30日：192頁）

- 編集委員会「巻頭言」1～2頁。
山田明「賀川豊彦における社会事業論の展開」3～24頁。
布川弘「賀川豊彦と労働組合」25～50頁。
中村政則「賀川豊彦と農民運動」51～74頁。
飯沼二郎「賀川豊彦の農村伝道（神の国運動・農民福音学校）」75～90頁。
米沢和一郎「賀川豊彦の協同組合運動」91～127頁。
井上和子「賀川豊彦とセツルメント運動—大阪における働きを中心にして」128～146頁。
福田美鈴「詩人賀川豊彦」147～162頁。
白石玲子「賀川ハル」163～178頁。
深田未来生「大衆の先に立つ—賀川豊彦の伝道」179～190頁。
賀川純基「あとがき」191頁。

編集委員会「編集後記」192頁。

第8号（1988年10月1日：64頁）

賀川豊彦「夫婦の苦闘の跡」1～5頁。

「妻恋歌」6～7頁。

賀川ハル「乞食の親分」8～18頁。

「ハルの手紙」19～21頁。

賀川純基「聖書が動かした人間」22～31頁。

「資料 救霊団年報」32～41頁。

「座談会 家庭人としての賀川豊彦」42～50頁。

「賀川豊彦と共に働いた人達—武内勝一」51～53頁。

奈須瑛子「村岡平吉と福音印刷」54～61頁。

「研究グループ紹介」62～63頁。

「資料館だより・亜麻糸」64頁。

第9号（1989年12月1日：64頁）

賀川豊彦「無生物との対坐」1～4頁。

賀川豊彦「吉本健子追悼」5～7頁。

「賀川豊彦関係事業展開図」8～9頁。

賀川純基「解説」10～19頁。

「資料『雲の柱』執筆者リスト」20～29頁。

高堂要「『戯曲 雲の柱』について」30～34頁。

「座談会 賀川豊彦のペン達」35～42頁。

兩宮栄一「賀川と共に働いた人 黒田四郎牧師」43～46頁。

賀川豊彦「阿波吉野川のほとり」47～50頁。

祖父江泰「賀川豊彦生誕百年記念事業と忘れ得ぬ人々」51～54頁。

森彬「賀川豊彦と共に働いた人達—吉田源治郎」55～58頁。

加山久夫「研究グループ紹介」59～61頁。

「資料館だより」62～63頁。

「亜麻糸」64頁。

第10号（1991年10月1日：60頁）

賀川豊彦「宗教についての対話」1～8頁。

宣教師プラムボウ師「全身全霊を主に献げて—賀川理解のために—」9～22頁。

賀川純基「講演『賀川豊彦の原点』」23～26頁。

賀川純基「大邱大学社会福祉学科特別講義—賀川豊彦の諸事業—」27～36頁。

「特集解説『賀川豊彦とイエスの友』」37～47頁。

「イエスの友会夏期修養会及び全国大会—賀川先生在世中の記録—」48～53頁。

「資料・イエスの友会小刷子運動出版物」54～56頁。

牧野伸造「神戸新川時代の回顧」57～59頁。

賀川純基「あとがき」60頁。

第11号（1992年12月25日：64頁）

賀川純基「『友愛の経済』について」1～5頁。

賀川豊彦「キリスト教の本質と経済革命」6～18頁。

米沢和一郎「友愛の経済—その現代的意義—」19～25頁。

賀川豊彦「[資料] 国際平和と協同組合の関係」26～34頁。

米沢和一郎「世界は賀川豊彦をどう見たか（欧州取材報告1988-1991）」35～43頁。

「座談会『賀川豊彦と友愛の経済』—協同組合初期の展開と内実—」44～61頁。

「賀川資料館創立十周年記念に当たりジュネーブよりのお祝いの言葉」62～64頁。

第12号（1995年9月1日：40頁）

布川弘「神戸スラム改善事業と関東大震災救護活動の比較」1～4頁。

米沢和一郎「阪神大震災で報じられた賀川豊彦の働き」5～9頁。

佐竹千歳「インタビュー記録 関東大震災 本所救護活動の回想」10～24頁。

内海不二子「NHK文化番組部『ライバル日本史』製作 巣鴨拘置所・プリズンにおける加藤一夫・哲太郎父子の因縁—なかに織りなす賀川豊彦との縁—」25～29頁。

友貞安太郎「組織創立者への“恩返し” コープこうべ生協研究機構」30～34頁。

藤坂信子「クリスマスの贈り物」35～36頁。

福元真由美「子どもたち—その『人格』としての発見—」37～38頁。

「原稿公募の御知らせ」39頁。

米沢和一郎「編集後記」40頁。

斎藤宏「賀川豊彦記念松沢資料館新館長御挨拶」裏表紙の裏。

第13号（1996年6月1日：34頁）

布川弘「賀川豊彦の社会連帯思想とその運動の意義」1～7頁。

黒川徳男「震災復興期の東京市政と賀川豊彦」8～12頁。

福元真由美「神戸スラムにおける賀川豊彦の子ども観」13～18頁。

大里知子「親泊康永と賀川豊彦」19～22頁。

井上史「自己を生きる、ということ 大正七年の賀川豊彦と与謝野寛」23～26頁。

倉橋克人「賀川研究の現在、そして課題」27～29頁。

福元真由美「一人の女性教師と関東大震災」30～31頁。

米沢和一郎「NHK ライバル日本史賀川豊彦篇最終報告」31頁。

米沢和一郎「編集後記」32～33頁。

第14号（1997年7月1日：32頁）

石田友雄「『バツハの森』の思想的ルーツ—石田友治と彼の盟友、賀川豊彦より継承したもの—」
1～6頁。

池田鮮「一九四三年事件を巡る賀川豊彦とFORについて」7～9頁。

井上史「アメリカ協同組合運動のなかの賀川豊彦——一九三〇年代を中心として——」10～13頁。

木村和世「村島歸之について—賀川豊彦をめぐる人々—」14～17頁。

藤坂信子「ガリラヤの春に倣って—三浦清一の生涯—」18～21頁。

雨宮延幸「賀川先生のオートバイ」22～24頁。

原田勝弘「『賀川豊彦研究』講演会と記念講座開講をめぐって」25～27頁。

渡辺栄「『賀川豊彦研究』講座開設について」28～29頁。

米沢和一郎「社会改良家賀川豊彦のグローバルな真価」30～32頁。

米沢和一郎「編集後記」裏表紙の裏。

第15号（1998年7月1日：40頁）

「賀川豊彦研究の現状と課題」1～4頁。

布田弘「十五年戦争期における賀川豊彦の平和運動の歴史的意義に関する試論」5～7頁。

木原活信「賀川豊彦とJ・アダムズ—セツルメントをめぐって—」8～12頁。

黒川徳男「関東大震災後の賀川豊彦・吉野作造・末弘巖太郎」13～17頁。

山領健二「賀川豊彦と長谷川如是閑—自殺論をめぐる出会い—」18～20頁。

加藤武子「国際連盟事務局次長 新渡戸稲造 ジュネーブ・レザマンドリエの追想続篇」21～28頁。

木村和世「大阪と村嶋歸之」29～32頁。

秋吉美也子「廃墟からの発信 石橋・清沢・賀川の対米放送」33～36頁。

賀川純基「追悼特集 武藤富男先生と賀川豊彦」37～39頁。

斎藤宏「追悼特集 武藤富男先生を天に送る」39～40頁。

米沢和一郎「編集後記」裏表紙の裏。

第16号（2002年3月31日：40頁）

松沢資料館前館長 賀川純基「資料紹介『時代傾向の観察及び批判』から（原資料と解説）」1～
2頁。

古屋安雄「賀川豊彦とは誰か プリンストン神学大学第一回賀川豊彦講座」3～16頁。

浜田直也「賀川豊彦の『孫文』観と日中戦争」17～40頁。

松沢資料館館長 斎藤宏「『雲の柱』」再刊の挨拶」40頁。

杉浦秀典「編集後記」40頁。

第17号（2003年3月1日：47頁）

賀川純基「賀川豊彦資料紹介『スケッチブック』（原資料写真と解説）」1～3頁。

服部栄「『賀川豊彦—導き、押し出す存在として—』」4～5頁。

阿部志郎「『今賀川精神をどう生きるか』」6～17頁。

- 今井鎮雄「賀川豊彦の先見性を見る」18～19頁。
 岡田健一「二一世紀に生かす賀川の教育」20～21頁。
 加山久夫「境界線上の思想と実践」22～23頁。
 河島幸夫「私の賀川豊彦研究の昨今」24～25頁。
 岸英司「賀川豊彦先生の瞑想の工夫—雲の柱大正一二年二月号から—」26～27頁。
 倉橋克人「『神学者』たり得なかった賀川豊彦」28～29頁。
 武知忠義「賀川豊彦と現代」30～31頁。
 鳥飼慶陽「二一世紀を生きる賀川豊彦」32～33頁。
 野村誠「賀川豊彦の信仰と働き」34～35頁。
 深田未来生「賀川豊彦における預言者性」36～37頁。
 古屋安雄「賀川豊彦の二一世紀への継承」38～39頁。
 浜田直也「賀川豊彦と中国—一九二〇年の賀川と孫文，陳独秀会談—」40～46頁。
 斎藤宏「開館二十周年『雲の柱』記念号発刊にあたって」47頁。
 杉浦秀典「編集後記」47頁。

第18号（2004年3月15日：37頁）

- 金井信一郎「隅谷三喜男—回想のわが師・わが友—」1～5頁。
 本間照光「保険に映ったいのちの危うさ—現代・日本という魔法の杜—」6～8頁。
 小南浩一「賀川豊彦の経済哲学—その今日的意義（について）—」9～24頁。
 栗原直子「賀川豊彦のキリスト教保育連盟での働き—自然科学とキリスト教の調和を中心とした保育を中心に—」25～29頁。
 南香重「賀川豊彦とイエスの友会」30～34頁。
 加山久夫「書評 賀川豊彦の原像を描く力作—雨宮栄—『青春の賀川豊彦』（新教出版社・二〇〇三年）—」35～37頁。
 斎藤宏「ご挨拶」裏表紙の裏。
 杉浦秀典「編集後記」裏表紙の裏。

第19号（2005年2月15日：36頁）

- 加山久夫「新たに発見された賀川豊彦の詩」1～4頁。
 金井新二「賀川豊彦と神の国運動—世界の潮流の中で—」5～15頁。
 鳥飼慶陽「賀川豊彦没後の四〇余年—二一世紀を生きる・私的断片ノート—」16～36頁。
 斎藤宏「『神の国運動』の継承」裏表紙の裏。
 杉浦秀典「編集後記」裏表紙の裏。

第20号（2006年3月20日：70頁）

- 加山久夫「與謝野晶子の賀川豊彦素描」1～16頁。
 武田清子「賀川豊彦と現代」17～35頁。
 小山晃佑「プリンストン神学大学・第二回賀川豊彦講座『行って、同じようにしなさい！』—賀

川豊彦の辺境の神学—」36～62頁。

浜田直也「研究ノート—賀川豊彦と『中国革命』についての覚書—」63～68頁。

斎藤宏「書評—『貧しい人々と賀川豊彦』 雨宮栄一著 新教出版社—」69～70頁。

杉浦秀典「編集後記」裏表紙の裏。

第21号（2007年3月20日：74頁）

加山久夫「徳富蘆花と賀川豊彦」1～38頁。

挽地茂男「賀川豊彦『少年平和讀本』を読む」39～49頁。

富澤千代子・榎井梅子・高橋しげ・加藤重・加山久夫「座談会・賀川ハルを語る」50～59頁。

関田寛雄「書評—『暗い谷間の賀川豊彦』 雨宮栄一著 新教出版社—」60～63頁。

山岸豊吉「賀川豊彦の生涯をどうしても作らねばと思った動機」64～65頁。

増原有理「賀川資料館へのお便りから『祖父の足跡を絶やさぬように』」66～67頁。

青柳隆「私の三つの岐路」68～72頁。

「賛助会員ご紹介のお願い」73頁。

「二〇〇九年賀川豊彦献身一〇〇年記念実行委員会発足のお知らせと協力をお願い」74頁。

杉浦秀典「編集後記」75頁。

第22号（2008年3月20日：79頁）

杉浦秀典「『救霊団年報』にみる賀川豊彦の活動」1～4頁。

加山久夫「大宅壮一の賀川豊彦素描」5～45頁。

河上民雄「敗戦直後の賀川豊彦について」46～57頁。

磯部浩二「賀川豊彦の親族とその系譜—賀川家・磯部家・森家・天羽家等について—」58～72頁。

本間照光「書評『賀川豊彦—愛と正義を追い求めた生涯』 ロバート・シルジェン著 イエスの友
会誌 賀川豊彦記念 松沢資料館監訳」73～77頁。

杉浦秀典「編集後記」78～79頁。

第23号（2009年5月20日：104頁）

雲柱社三法人「雲柱社創設七〇周年 雲柱社憲章」2～5頁。

石川和夫「記念説教『あなたなしには』」6～12頁。

阿部志郎「記念講演」13～20頁。

賀川純基「賀川豊彦と私」21～39頁。

マーク R・マリンス「国際的視野からの賀川研究」40～61頁。

濱田陽・李珣淑「賀川豊彦の協同組合思想と日韓現代社会—Brotherhood Economicsの可能性」
62～76頁。

「帝京大学 濱田陽ゼミ 松沢資料館の見学を終えて」77～85頁。

浜田直也「賀川豊彦の神戸『新川』スラム入りの原像—『大阪朝日新聞』（明治四三年一二月二六
日号）『浮浪人の家』について—」86～98頁。

中山弘正「書評 滝川好夫著『資本主義はどこへ行くのか』 PHP 研究所」99～101頁。

杉浦秀典「編集後記」103～104頁。

第24号（2010年3月20日：223頁）

加山久夫「賀川豊彦献身一〇〇年記念号の刊行によせて」2～3頁。

特集①シンポジウム『賀川豊彦と友愛社会の未来』

「挨拶」4～7頁。

最上敏樹「基調講演『寛容の再生のために』」8～30頁。

「シンポジウム『賀川豊彦と友愛社会の未来』阿部志郎／野尻武敏／荒川朋子／戒能信生」31～70頁。

野尻武敏「講演『賀川豊彦著『友愛の経済学』とその意義』」71～83頁。

特集②懸賞論文

「目次」84～85頁。

服部榮「懸賞論文審査結果について—報告と感謝—」86～87頁。

「懸賞論文（最優秀・優秀・佳作）」88～209頁。

河上民雄「ガンジー・賀川・マンデラーある国際会議に出席して—」210～215頁。

中山弘正「書評 賀川豊彦著 加山久夫・石部公男訳『友愛の政治経済学』コープ出版」216～222頁。

杉浦秀典「編集後記」223頁。

第25号（2011年3月20日：123頁）

加山久夫「賀川豊彦没後五〇年」1～6頁。

賀川豊彦（訳：南香重）「在米講演（一九三六年）賀川豊彦がアメリカで協同組合について話したこと」7～14頁。

賀川豊彦「マルキシズムとキリスト教」15～22頁。

賀川豊彦「スフィンクスとの対話—その永遠の謎—」23～28頁。

「賀川豊彦没後五〇年記念特集」29～116頁。

太田治子「特集①基調講演『賀川豊彦 その愛』」30～65頁。

菅野昭正・加山久夫「挨拶」

「特集②シンポジウム『賀川豊彦の文学～その作品の力～』シンポジスト田辺健二・森田進・濱田陽」66～116頁。

古屋安雄「オーソブラクシー」117～122頁。

杉浦秀典「編集後記」123頁。

第26号（2012年3月20日：147頁）

杉浦秀典「口絵解説『パール博士と会談する賀川豊彦』」1～5頁。

近藤哲郎「『貧民心理の研究』と一九一〇年の賀川豊彦—『現代傾向の哲学』解題に代えて」6～12頁。

賀川豊彦「翻刻『現代傾向の哲学』（『時代傾向の観察及批判』改題）」13～82頁。

トマス・ジョン・ヘイスティングス（訳：加山久夫）「プリンストン神学校 第4回賀川講演（二〇一一年四月五日）イエスの贖罪愛の実践～賀川豊彦の持続的証し～」83～112頁。

加山久夫「平和のつなぎ—河井道と賀川豊彦—」113～127頁。

服部榮「キリスト教社会福祉事業の課題～ミッションに立って、その使命を果たすために～」128～139頁。

墨威宏「失われた賀川豊彦像」140～146頁。

杉浦秀典「編集後記」147頁。

第27号（2013年3月20日：128頁）

齊藤宏「賀川豊彦記念松沢資料館 開設三〇周年にあたって」1～6頁。

野尻武敏「いまなぜ賀川豊彦なのか～国際協同組合理年によせて～」7～19頁。

加山久夫「日本キリスト教史における賀川豊彦～再評価は可能か～」20～63頁。

新澤誠治「賀川先生との出会いと保育の世界に生かされて」64～84頁。

杉山恵子「『アンペラ御殿』と『森の家』～賀川豊彦・松沢村移住の詳細～」85～115頁。

杉浦秀典「口絵解説 賀川豊彦記念松沢資料館建設の経緯」116～127頁。

杉浦秀典「編集後記」128頁。

第28号（2014年3月25日：136頁）

加山久夫「賀川純基 召天十年」1～2頁。

杉浦秀典「口絵解説 賀川全集から漏れた賀川の幻の名作『偶像の支配するところ』」3～8頁。

加山久夫（訳）「賀川豊彦『宇宙の目的』への序文 トーマス・ヘイスティングス」9～42頁。

田井修司「コープみらい誕生と生協のかたち」43～54頁。

山本伸司「蘇る賀川豊彦—協同組合運動における哲学の問題—」55～60頁。

鍋谷由美子「賀川（芝）ハルをスラム街へと動かした原動力とは」61～82頁。

杉山恵子「松沢村の教会堂～賀川豊彦・松沢村移住の詳細(二)～」83～115頁。

新澤誠治「私にとっての賀川豊彦の保育思想—保育者へのメッセージとして—」116～134頁。

編集部「編集後記」135頁。

第29号（2015年3月17日：156頁）

杉浦秀典「ガイド『最後のノーベル平和賞推薦』」3～4頁。

金井新二「協同組合社会—賀川豊彦の夢—」5～17頁。

本田英一「コープこうべのたゆまなき挑戦」18～29頁。

加藤好一「賀川豊彦を『忘却』しない努力を」30～37頁。

金井新二・石井摩耶子・千葉眞「新春鼎談 賀川豊彦と平和」38～81頁。

茂洋「武内のおばさんのことなど」82～85頁。

齊藤宏・加山久夫「インタビュー 雲柱社とともに歩んだ六一年」86～116頁。

山戸隆也「児童虐待防止と学習権の保障—賀川豊彦の実践に学ぶ—」117～138頁。

賀川豊彦「賀川豊彦 復刻アーカイブズ① 小説の作り方と読みかた」139～153頁。

「新刊書籍の案内 Seeing All Things Whole ヘイステイングス」154頁。

「読者の声をお寄せ下さい！」155頁。

編集子「編集後記」156頁。

第30号（2016年3月20日：216頁）

金井新二「巻頭言 協同組合間協同への胎動—カガワ・スクーリングとコープ・トップ対談」1～2頁。

奥野長衛・浅田克己・加山久夫「コープトップ対談 協同組合のいまとこれから～協同組合が未来を拓く～」3～34頁。

大川真「本当の人間らしさとは何か—賀川豊彦と吉野作造から学ぶ—」35～67頁。

金井新二「賀川豊彦と共に福祉に生きた先達者たち 鶴沢よね氏 インタビュー録」68～93頁。

今関公雄「松沢幼稚園の保育—賀川豊彦の保育観を想起して—」94～146頁。

梅村真造「賀川豊彦と一麦寮 賀川の愛した『武庫川のほとり瓦木村』での足跡」147～169頁。

「賀川豊彦と一麦〈年表〉」170～180頁。

白種仁「海外レポート『韓国大邱大学校と賀川豊彦』」181～189頁。

大邱大学校賀川豊彦研究会「『愛と平和の使徒』賀川豊彦牧師」190～193頁。

一木一郎「賀川純一伝—エルトゥール号沈没事故の救援功労者を追って—」194～206頁。

「『雲の柱』掲載一覧」207～215頁。

杉浦秀典「編集後記」216頁。

第31号（2017年3月31日：220頁）

金井新二「巻頭言 エクソダスの民」1～3頁。

奥田知志「賀川豊彦賞 受賞にあたって」4～15頁。

稲垣久和「諸協同組合の間に橋をかける—第二回賀川シンポジウムから—」16～56頁。

平尾真智子「第四回賀川豊彦松沢フォーラム 賀川豊彦とイエスの看護婦ミッション」57～86頁。

松野尾裕「第五回賀川豊彦松沢フォーラム 岩手県摺沢の三愛塾運動」87～134頁。

河島幸夫「賀川豊彦のドイツ紀行—ドイツ現代史研究の視点から—」135～159頁。

片岡徹「米国マンチェスター大学と賀川豊彦」160～168頁。

芳賀慶治・服部榮・金井新二「鼎談 賀川豊彦と共に福祉に歩んだ人々」169～202頁。

吉川俊子「賀川豊彦が抱いた幼児教育のヴィジョンと初期の松澤幼稚園を体験した人々」203～210頁。

刈谷雅夫「活かされている『賀川豊彦』立体農業実践！ 視察リポート 小井田立体農業（小井田立体農業研究所）実践事例」211～219頁。

杉浦秀典「編集後記」220頁。

第32号（2018年3月28日：239頁）

金井新二「巻頭論文 賀川豊彦と軍国主義—軍部協力とその真意」1～15頁。

- 米山けい子「第二回 賀川豊彦賞 受賞にあたって」16～22頁。
 加山久夫「協同組合運動の原点と未来～賀川豊彦と一楽照雄～」23～37頁。
 黒川知文「第五回賀川豊彦松沢フォーラム 豊島における賀川豊彦(-)」38～59頁。
 河内聡子「第一回賀川豊彦松沢フォーラム 理想郷としての『乳と蜜の流るゝ郷』—産業組合の論理を越えて」60～92頁。
 和田武広「木崎村小作争議と賀川豊彦」93～131頁。
 稲垣久和「第三回賀川豊彦シンポジウム『協同』がつながって日本社会を変える—転換する社会の中での連帯」132～144頁。
 伊藤サチ子「松澤幼稚園」145～157頁。
 服部榮・金井新二「インタビュー録 賀川豊彦と共に福祉に歩んだ人々」158～195頁。
 松野尾裕「鳥飼慶陽著『賀川豊彦と明治学院 関西学院 同志社』（文芸社、二〇一七年）を読んで」196～213頁。
 杉山恵子「テントとアンバラ，そして会堂建設へ—賀川豊彦と松澤村展—余話①」214～238頁。
 杉浦秀典「編集後記」239頁。

第33号（2019年3月27日：136頁）

- 金井新二「日本のキリスト教は再生できるか—賀川の『助け』希望の光」1～11頁。
 香山リカ「賀川豊彦生誕一三〇年記念企画 香山リカ氏講演録『助け合えない時代の若者たち』平和と共生を受け継ぐために」12～31頁。
 稲垣久和「第四回賀川豊彦シンポジウム 地域とくらし—今，女性の視点から考える」32～38頁。
 松野尾裕「第九回賀川豊彦松沢フォーラム 秋田県仙北市田沢湖神代柏林のクリスチャン集落を訪ねて」39～70頁。
 岩田三枝子「第九回賀川豊彦松沢フォーラム『評伝 賀川ハル—賀川豊彦とともに，人々とともに』第二回賀川豊彦出版助成による刊行に際して」71～83頁。
 吉川俊子「松沢フォーラムで岩田氏の発表を聴き賀川ハル夫人について想うこと」84～86頁。
 河島幸夫「賀川豊彦の優生思想と『弱者の権利』論—文献・資料紹介を中心に—」87～104頁。
 佐竹千歳「おもいで」105～106頁。
 佐竹明「『おもいで』について」107～109頁。
 服部榮・雨宮栄一「雨宮先生へのインタビュー 二〇一九年一月一六日」110～119頁。
 杉山恵子「書評 岩田三枝子著『評伝 賀川ハル—賀川豊彦とともに，人々とともに』」120～135頁。
 杉浦秀典「編集後記」136頁。

第34号（2020年3月24日：167頁）

- 金井新二「〈巻頭言〉資本主義に正しい分配は可能か」1～4頁。
 横山鈴子「第一〇回賀川豊彦松沢フォーラム 史料からみる『近世の主婦』像と共同体的集団（ゲマインシャフト）—そして，賀川ハルへ—」5～56頁。
 松野尾裕「第一一回賀川豊彦松沢フォーラム『経済門』と『道徳門』をつなぐ思想と実践—協同

組合運動の源流を訪ねて一」57～89頁。

稲垣久和「第五回賀川豊彦シンポジウム SDGs（持続可能な開発目標）と賀川スピリッツ」90～95頁。

伊藤澄一「キリスト者・賀川豊彦の思想に学ぶ」96～113頁。

中村悠子・服部榮・杉浦秀典「インタビュー録『障がい児・者と共に生きて』」114～151頁。

山崎敏輝「城ノブの生涯から—信念と行動の人・城ノブのあゆみ—」152～164頁。

柴田謙治「賀川豊彦から学ぶ『人間の苦しみと弱さ、楽しさの共有』」165～166頁。

杉浦秀典「編集後記」167頁。

第35号（2021年3月26日：168頁）

黒川知文「〈巻頭言〉賀川豊彦と聖書」1～5頁。

石井摩耶子・黒川知文「新春対談 新理事長と新館長の自己紹介」6～14頁。

「第五回賀川豊彦賞 奨励賞 受賞にあたって」15～25頁。

野田詠氏「特定非営利活動法人『チェンジングライフ』」15～17頁。

松本亜樹子「NPO 法人 Fine（ファイン）」18～19頁。

奥田和慶「網地島ふるさと楽好」20～22頁。

圓山王国「芝園かけはしプロジェクト」23～25頁。

広崎仁一「優れた変革リーダーの『生き方モデル』—『下座奉仕』の精神に生きた賀川豊彦—」26～36頁。

黒川知文「豊島における賀川豊彦(二)」37～54頁

今関公雄「松沢幼稚園は創立九〇周年—賀川豊彦の保育観に導かれて—」55～88頁。

依田幸子・服部榮「対談 雲柱社・福祉の先達者たちに聞く」89～129頁。

河島幸夫「賀川豊彦優生関係文献目録と略解」130～163頁。

石井摩耶子「〈書評〉松野尾裕『賀川豊彦 互助友愛の教育と実業』」164～167頁。

杉浦秀典「編集後記」168頁。

第36号（2022年3月25日：147頁）

黒川知文「〈巻頭論文〉賀川豊彦とドストエフスキー」1～10頁。

黒川知文「『死線を越えて』読書感想文受賞者 作品」11～37頁。

矢崎夏彦「成人の部 最優秀作品『死線を越えて』を読んで」13～15頁。

金井加代子「成人の部 優秀作品『死線を越えて』に導かれて」16～18頁。

今関公雄「成人の部 優秀作品 貧民窟のキリスト使徒」19～21頁。

平田健人「青少年の部 最優秀作品 死線を越えて 感想文」22～24頁。

白須大輝「青少年の部 優秀作品『死線を越えて』を読んで」25～27頁。

黒澤優「青少年の部 優秀作品『死線を越えて』感想文」28～31頁。

細川紀代「青少年の部 奨励作品 死線を越えて」32～34頁。

田辺健二・石井マヤコ「審査員による講評」35～37頁。

石井マヤコ「第六回 賀川豊彦賞」38頁。

石橋誠「NPO 法人 POSSE」39～41頁。

黒川知文・岩田三枝子・陶波・伊丹謙太郎「特集『賀川豊彦・ハル研究の現在、未来』～若手研究者による座談会」42～70頁。

金丸裕一「『中外日報』に連載された賀川豊彦の署名記事をめぐって」71～86頁。

真鍋晶子「ウィリアム・バトラー・イエイツの『聖者』と賀川豊彦」87～99頁。

山中典夫「賀川豊彦と Folkehøjskole」100～106頁。

服部榮・小磯満・杉浦秀典「対談 社会福祉法人 雲柱社の未来」107～142頁。

今関公雄「松沢幼稚園創立九〇周年記念事業について」143～146頁。

杉浦秀典「編集後記」147頁。

※ ※

肆, 『賀川豊彦学会論叢』

創刊号（1985年11月30日：135頁）

高橋源次「〈巻頭言〉」1頁。

嶋田啓一郎「賀川豊彦は私達にとって何を意味するか」2～17頁。

岸英司「『生命宗教と生命芸術』における賀川豊彦の神学思想」18～31頁。

森静朗「賀川と信用組合理論と実践」32～48頁。

米沢和一郎「先導者賀川豊彦と秋田医療組合」49～61頁。

気賀健生「『阿部義宗と賀川豊彦』」62～78頁。

岡崎一「トマス・モア受容史一斑—賀川豊彦の場合—」79～95頁。

玉木衛「社会運動に対する思想的方法の問題—賀川豊彦の神戸時代から神の国運動へ至る運動の思想的展開への試論—」96～111頁。

矢島浩「賀川豊彦書誌—書籍篇—」112～133頁。

岡崎一「〈編集後記〉」134～135頁。

第2号（1987年2月28日：77頁）

園部治夫「賀川豊彦碑文」1頁。

Genji Takahashi（高橋源次）「Senescence as Renaissance」2～3頁。

金井新二「賀川豊彦のアメリカ批判とアジア的キリスト教」4～14頁。

野村誠「ウェスレーと賀川の神学思想」15～27頁。

山田明「1910年代貧民街における障害者の受障と落層」28～50頁。

玉木衛「大正期における社会運動と賀川ハル」51～66頁。

小林貞次「高齢化社会における社会福祉」67～76頁。

担当理事「〈編集後記〉」77頁。

第3号（1988年1月28日：132頁）

- 高橋源次「巻頭言 最高のもの」1頁。
 吉田久一「日本社会事業思想の成立と限界—1916～1932年」2～45頁。
 森静朗「中ノ郷質庫信用組合と賀川豊彦」46～57頁。
 岸英司「賀川豊彦における科学と宗教の理念」58～70頁。
 野村誠「メソジズム運動と賀川豊彦の運動」71～84頁。
 玉木衛「『矛盾録』における賀川豊彦の社会思想史的考察」85～116頁。
 加藤恵司「賀川豊彦の世界国家・連邦の法思想に関する研究」117～129頁。
 Evemarie Haupt「賀川豊彦との出会い」130～131頁。
 担当理事「〈編集後記〉」132頁。

第4号（1989年3月20日：118頁）

- 磯村英一「巻頭言 賀川豊彦学会に期待する」1～5頁。
 岸英司「賀川豊彦における進化論的創造思想とキリスト教信仰」6～21頁。
 野村誠「ウエスレーと賀川のつながり」22～30頁。
 山田明「初期賀川の貧困・貧民認識の形成過程—神戸新川貧民街への移住まで—」31～59頁。
 玉木衛「賀川豊彦の初期思想と時代背景」60～99頁。
 大塚茂幸「〈研究ノート〉遊佐敏彦の神戸における職業紹介事業」100～107頁。
 丹羽一二「賀川豊彦学会第28回研究会報告」108～112頁。
 松本弘「書評 ①時の流れのなかで—宗教・人生・キリスト」113頁。
 金子益雄「書評 ②Toyohiko Kagawa Apostle of Love and Social Trustce by Robeve Schildgen」
 114～115頁。
 小崎忠雄「書評 ③明治期日本キリスト教社会事業施設史研究」116～117頁。
 担当理事「〈編集後記〉」118頁。

第5号（1990年3月20日：102頁）

- （「トビラ『もやいの碑』の縁起・写真」1～2頁。）
 磯村英一「巻頭言 平成年間に映る賀川のイメージ」1～7頁。
 田村剛「賀川豊彦の労働観—『主観経済の原理』を中心に」8～25頁。
 平田正夫「アメリカにおける賀川豊彦」26～34頁。
 木田市治「賀川先生から学んだこと」35～42頁。
 野村誠「賀川豊彦の宗教と社会理解」43～56頁。
 鈴木武仁「賀川豊彦の経済価値論」57～69頁。
 久保亨「〈研究ノート〉障害児施設の現状と課題」70～78頁。
 杉山博昭「賀川豊彦の娼妓思想」79～88頁。
 千葉明德「賀川先生に学ぶ」89～97頁。
 松本弘「〈書評〉①現代の人権論～4代にわたる人権の足跡」98～99頁。
 大塚茂幸「〈書評〉②キリスト教と日本文化」100頁。

担当理事「〈編集後記〉」101～102頁。

第6号（1991年1月20日：95頁）

磯村英一「賀川豊彦を現代に生かす」1～4頁。

岸英司「賀川豊彦『宗教教育論』における宗教の理念」5～22頁。

玉木衛「近代国際社会における国際関係と平和」23～37頁。

野村誠「キリスト教と日本文化—賀川豊彦の背景を理解する手がかりとして—」38～52頁。

加藤恵司「賀川豊彦と治安維持法」53～76頁。

長淵晃二「高齢者の住宅保障に関する一考察」77～85頁。

対馬サカエ「現代にいかそう賀川豊彦の幼児教育」86～95頁。

矢島浩「〈編集後記〉」95頁。

第7号（1992年1月30日：62頁）

磯村英一「賀川豊彦に何を発見する」1～3頁。

岸英司「宇宙思想家としての賀川豊彦」4～16頁。

野村誠「『死線を越えて』—賀川の信仰と社会理解—」17～31頁。

小沢温「障害者の地域生活の変遷と新しい展開について—精神遅滞者を対象にして—」32～39頁。

岡野幸江「賀川豊彦と細井和喜蔵」40～47頁。

杉山博昭「賀川豊彦と救癲」48～61頁。

担当理事「〈編集後記〉」62頁。

第8号（1993年1月30日：197頁）

磯村英一「私にとって“洗礼”とは—賀川とのちがいは—」2～6頁。

森静朗「21世紀の助走 賀川豊彦の現代的意義—金融観を通じて—」7～59頁。

森晴朗「付（1888年～1960年 日本・世界・キリスト教界・賀川年譜）」60～123頁。

緒方彰「賀川豊彦の贖罪愛思想」124～132頁。

野村誠「賀川豊彦の神学①—神について—」133～147頁。

長谷川勉「賀川豊彦の協同組織金融観」148～177頁。

玉木衛「戦後国際平和と世界連邦構想」178～192頁。

芹沢三和子「書評 大和田茂著『社会文学・1920年前後』」193～196頁。

担当理事「〈学会報告〉〈編集後記〉」197頁。

第9号（1994年3月15日：72頁）

磯村英一「私は賀川学会に何を期待する」1～2頁。

長谷川匡俊「日本仏教の歴史にみる福祉の実践と思想—「捨世型福祉」に学ぶもの—」3～13頁。

田村剛「労働問題への賀川豊彦の視点」14～29頁。

野村誠「賀川豊彦の神学〔2〕キリストについて」30～45頁。

本間照光「賀川協同組合保険論の意味—賀川豊彦研究上の空白、社会科学上の空白—」46～62頁。

小澤温「公衆衛生と社会福祉の接点を考える—エイズの今日の問題を通して—」63～71頁。
 矢島浩「〈編集後記〉」72頁。

第10・11号（合併号）（1996年3月15日：78頁）

磯村英一「巻頭言 賀川豊彦学会の研究と行動」1～2頁。
 磯村英一「序にかえて」3～4頁。
 野村誠「賀川豊彦の神学〔3〕 聖霊について」5～14頁。
 本間照光「『日本型』企業社会と団体定期保険」15～26頁。
 加藤恵司「賀川豊彦と日本国憲法」27～39頁。
 高超陽「薛仙舟と賀川豊彦」40～52頁。
 倉橋克人「全国水平社の創立と賀川豊彦」53～65頁。
 RALF Silke「労働の人格化—賀川豊彦の労働組合観」66～77頁。
 担当理事「〈編集後記〉」78頁。

第12号（2003年7月1日：54頁）

金井信一郎「『賀川豊彦学会論叢』新発行に際して」1～2頁。
 古屋安雄「賀川豊彦とグローバリゼーション」3～13頁。
 西村虔「賀川豊彦と贖罪愛」14～29頁。
 鈴木武仁「賀川における伝道の神学」30～49頁。
 「賀川豊彦学会規約」50～53頁。
 「後記」54頁。

第13号（賀川純基氏追悼号）（2005年3月31日：162頁）

宮田光雄「日本国憲法前文を読み直す」1～28頁。
 小澤温「社会福祉基礎構造改革と賀川豊彦」29～40頁。
 野村誠「賀川豊彦と日本の宗教文化—『東洋思想の再吟味—宗教的道德真理よりの精神分析—』
 を中心に—」41～58頁。
 鳥飼慶陽「賀川豊彦没後の40余年—21世紀を生きる賀川豊彦—」59～67頁。
 篠崎恭久「高校日本史からみた賀川豊彦」68～78頁。
 賀川純基「賀川豊彦の視野」79～145頁。
 鈴木武仁「書評 雨宮栄一著『青春の賀川豊彦』—実証的手法により賀川の思想像を解明—」146
 ～153頁。
 本間照光「書評 鳥飼慶陽著『賀川豊彦再発見—宗教と部落問題』」154～161頁。

第14号（2005年12月28日：114頁）

古屋安雄「巻頭言」1～3頁。
 鳥飼慶陽「部落問題の解決と賀川豊彦」4～60頁。
 鵜沼裕子「賀川豊彦における『悪』の問題」61～81頁。

加山久夫「賀川豊彦と神の国運動」82～104頁。

米沢和一郎「賀川豊彦の対米批判—1941年以前を俯瞰して」105～114頁。

第15号（2007年6月28日：62頁）

小南浩一「賀川経済論の思想史的背景—ラスキンとプルドンを中心に—」1～34頁。

清澤達夫「わが国の生協のゆくえ—地域購買生協を中心に—」35～48頁。

古屋安雄「評伝三部作の書評」49～58頁。

「賀川豊彦学会規約」59～61頁。

「後記」62頁。

第16号（2008年5月31日：72頁）

野尻武敏「体制変換と生協—賀川思想の展開—」1～45頁。

石部公男「キリスト教と日本の時計産業—シチズンホールディングス、セイコーホールディングス、リズム時計工業を通して—」46～56頁。

野村誠「(書評)『賀川豊彦—愛と社会正義を追い求めた生涯—』」57～64頁。

清澤達夫「(新刊紹介)『日本福音学校創立40年史』」65～67頁。

清澤達夫「『(新刊紹介)一粒の麦』」68～71頁。

第17号（2009年6月30日：103頁）

山折哲雄「いま、賀川豊彦を考える」1～24頁。

野村誠「日本キリスト教史における賀川豊彦の意義—『内在の神』の神学を中心に—」25～40頁。

森本あんり「忘れられた預言者」41～69頁。

八木憲一郎「生協運動の父・賀川豊彦と三河地方—みかわ市民生協の取り組みから—」70～76頁。

杉浦秀典「アーカイブズとしての賀川豊彦記念松沢資料館」77～101頁。

「後記」102～103頁。

第18号（2010年：6月30日：113頁）

滝川好夫「世界金融危機と『友愛の政治経済学』：ケインズ、賀川、フリードマンの鼎談」1～16頁。

浜田直也「『浮浪人の家』(『大阪朝日新聞』)と賀川豊彦の医療活動について」17～32頁。

杉山博昭「賀川豊彦と優生思想」33～48頁。

義根益美「賀川豊彦『空中征服』の系譜—大正11年の賀川と大阪をめぐる動向を中心に—」49～92頁。

加藤恵司「中島重の思想と賀川豊彦」93～111頁。

「後記」112～113頁。

第19号（2011年6月30日：100頁）

陶波「平和を訴える賀川の力量—ルーズベルト・マッカーサー・李承晩に宛てた書簡をめぐって—」1～21頁。

野村誠「賀川豊彦と諸宗教—インドの宗教と文化に学ぶ—」22～43頁。

浜田直也「賀川豊彦と『合作社』運動—1927年、上海基督化経済全国大会についての一考察—」44～64頁。

山下俊史「（第23回 賀川豊彦学会講演）新しい生協の方向性を考える」65～97頁。

「後記」98～100頁。

第20号（2012年6月30日：99頁）

藤田潔「賀川豊彦の『叱られる権利』の考察—子どもの人格形成に関するエレン・ホワイトとの思想的類似性—」1～24頁。

篠崎恭久「『貧民心理の研究』についての一考察」25～43頁。

ステイグ・リンドバーク「（研究ノート）賀川豊彦の思想における〈芸術としての悪〉」44～64頁。

ブライアン・バード「ラインホルド・ニーバーと賀川豊彦—協同組合の限界と世界政府の幻想—」65～87頁。

岩井健作「岩井文男と賀川豊彦の農民福音学校」88～92頁。

伊丹謙太郎「（書評）浜田直也著『賀川豊彦と孫文』」93～97頁。

「後記」98～99頁。

第21号（2013年7月10日：107頁）

布川弘「国際的な平和運動における新渡戸稲造と賀川豊彦の役割」1～38頁。

荒内直子「賀川豊彦と幼児教育—大崎治部、すて夫妻による松沢幼稚園における実践を中心に—」39～61頁。

藤田潔「賀川豊彦の『労作教育論』考察—子どもの手先労働と人格形成—」62～78頁。

丸山義王「賀川豊彦と明治学院—高等部在学中の三つの論文をめぐって—」79～105頁。

「後記」106～107頁。

第22号（2014年7月20日：124頁）

並木浩一「賀川豊彦『苦難に対する態度』の成立と特色」1～38頁。

清澤達夫「牧師と神父—二人の聖職者が目指したもの—」39～99頁。

藤田潔「賀川豊彦のファンレイジング的行動の考察—寄付を獲得するための日本型募金哲学—」100～124頁。

第23号（2015年7月25日：92頁）

藤田潔「賀川豊彦の『レトリック』論考察—会ってみると弱々しい人で、話もつまらない……—」1～18頁。

本間照光「甦る賀川豊彦の共済論—自然と社会観、『社会進化の力』—」19～38頁。

トマス・ジョン・ヘイスティングス「あらゆるものを全体から見る姿勢—『科学的神秘論者』である賀川豊彦—」39～72頁。

加山久夫「賀川豊彦『小説 キリスト』（1938年）の復刻版刊行によせて」73～89頁。
「後記」90～92頁。

第24号（2016年8月31日：153頁）

黒川知文「（特別講演）再臨運動と神の国運動—内村鑑三と賀川豊彦の終末観—」1～54頁。
岩田三枝子「（研究論文）賀川ハルにおけるイエス観—共に歩む人格的存在者として—」55～72頁。
陶波「賀川豊彦・タッピング家とアメリカ—戦中の亀裂から戦後の関係修復へ—」73～102頁。
松野尾裕「賀川豊彦と黒澤酉蔵—相互扶助の思想にもとづく教育と実業—」103～127頁。
河映秀「（特別寄稿論文）韓国：大邱大学校における賀川豊彦」128～140頁。

第25号（2017年10月31日：126頁）

庚凌峰「戦前の中国における賀川豊彦の受容に関する一考察—1931年から1936年までの雑誌や新聞を中心に—」1～37頁。
伊丹謙太郎「現代日本の協同組合の社会・経済的インパクトと賀川思想の継承—市民セクターの主要な担い手としての協同組織の経済実態について—」38～61頁。
荒内直子「（研究ノート）大崎治部，すて夫妻のキリスト教教育—戦後の農村青年への教育実践を中心に—」62～86頁。
藤田潔「賀川豊彦と新憲法制定—新憲法はアメリカの押しつけか—」87～105頁。

第26号（2018年8月31日：157頁）

藤田潔「賀川豊彦の看護婦崇拜論—キリストの看護夫論にならいて—」1～25頁。
大野剛「賀川豊彦のキリスト教平和思想の変遷」26～49頁。
波勢邦生「賀川豊彦の『靈魂』理解」50～71頁。
金丸裕一「賀川豊彦による『中国』言説の一考察—日本プロテスタント史に定位する試み—」72～101頁。
鳥飼慶陽「（2017年9月3日，公開講演の記録）賀川豊彦と神戸—KAGAWA GALAXY」102～146頁。

第27号（2019年8月31日：85頁）

加山久夫「賀川豊彦と中島重—賀川『国家論』の解釈的展開の試み—」1～26頁。
小南浩一「賀川豊彦と日本国憲法」27～55頁。
播本秀史「（書評）岩田三枝子著『祥伝 賀川ハル—賀川豊彦とともに，人々とともに—』」56～74頁。

第28号（2020年12月31日：115頁）

岩田三枝子「横浜指路教会誌『指路』にみる村岡平吉とその家族—賀川ハルを巡る人々—」1～15

頁。

広崎仁一「賀川豊彦に見るサーバントリーダーシップ—SDGsの先駆者 賀川豊彦の生き方から学ぶ」16～31頁。

波勢邦生「七要素と『宇宙の目的』」32～64頁。

金秀娟「賀川豊彦による神の国運動の神学的基盤—聖霊論を中心に」65～79頁。

篠崎美生子「賀川豊彦『死線を越えて』の位置」80～103頁。

第29号（2022年8月31日：87頁）

金丸裕一「賀川豊彦の第一回中国訪問について—1920年夏の〈原体験〉を思考する—」1～35頁。

野村誠「賀川豊彦のパースペクティブスコラ哲学の視点から—」36～59頁。

波勢邦生「賀川豊彦と『不尽油壺』」60～78頁。

※ ※

伍、『阿波牧舎—賀川豊彦記念・鳴門友愛会会誌』

第1号（2004年3月31日：41頁）

勘川一三「会誌創刊にあたって」1頁。

船本純良「ドイツ牧舎と父・船本宇太郎」2～8頁。

林啓介「『賀川紹介』二十余年の回顧」9～13頁。

林喜義「愛は、私の一切である」14～18頁。

市原明「賀川豊彦先生と私」19～20頁。

猿田ミヨ子「賀川先生と私」21頁。

田辺健二「新しい文化の発信基地としての賀川豊彦記念館」22～24頁。

富永利幸「鳴門市賀川豊彦記念館設立への思い出と今後の課題」25頁。

磯部浩二「鳴門市賀川豊彦記念館の完成に思うこと」26～27頁。

田淵豊「鳴門市賀川豊彦記念館の歩み」28～32頁。

武知忠義「賀川豊彦の理想を受け継ごう—世界連邦建設を目指して—」33～34頁。

岡田健一「『私の賀川豊彦研究』から『黒田四郎特別展』まで」35～38頁。

三久志志「賀川豊彦の全体像を求めて—建設への始動(一)—」39～40頁。

第2号（2005年3月1日：50頁）

吉本浩三「太平洋戦争前夜の日米交渉と賀川豊彦」2～25頁。

黒田絢「賀川と黒田四郎」26～29頁。

林啓介「賀川豊彦の母校（賀川の母校・城南高校での出来事）」30～32頁。

反田卓「徳島を愛した賀川先生—日本画展を開催させていただいて—」33～34頁。

三久忠志「ゼロからの出発『賀川豊彦記念館を目指す会』を立ち上げた人たち」38～42頁。
近藤敬一「賀川豊彦の信仰と自然科学」43～49頁。

第3号（2006年3月20日：38頁）

田辺健二「賀川豊彦と日本国憲法」2～6頁。
三久忠志「記念館建設の礎＝最初の青写真―故 島幸一郎さんを偲ぶ―」7～9頁。
黒田絢「東京視察旅行 賀川先生のゆかりの地をたずねて2006年1月26～27日」10頁。
香美博行「『賀川先生とアインシュタイン展』を見て」11～12頁。
福井萬亀治「賀川豊彦記念館ボランティア日記」13～14頁。
若松善英「鳴門市課賀川豊彦記念館の集客対策について提案」15～16頁。
吉本浩三「シチガオサムの兵役拒否と賀川豊彦―資料紹介を兼ねて―」17～29頁。
武知忠義「研究メモ 賀川豊彦の平和運動と中国関係記録」(1)～(9)

第4号（2006年12月26日：50頁）

田辺健二「『戦後の精神』を護る」1頁。
新居志郎「賀川豊彦、新居格の両氏のご恩に謝して」2～5頁。
黒田絢「保育園実践の中で―子育て講座の記録 2006.10.14―」8～16頁。
磯部浩二「賀川豊彦先生から学ぶ」17～20頁。
三久忠志「ボランティアの歴史と賀川豊彦」23～30頁。
吉本健三「日本国憲法の制定経緯と天皇制・平和条項の成立」31～42頁。
武知忠義「研究メモ 賀川豊彦と徳島の絆―徳島における賀川豊彦関係資料紹介―」(1)～(8)

第5号（2007年12月26日：37頁）

田辺健二〈巻頭言〉「限界国家・日本」1～2頁。
松田祥吾「賀川豊彦先生のサインと中川鶴江」3～9頁。
香美博行「『賀川豊彦と子供の教育』特別展に参加して」10～12頁。
黒田絢「強盗さんがいらっしやっただ」13～14頁。
磯部浩二「市橋潔兄の遺言」15頁。
板東九十郎「一ボクの新しい一歩―」16頁。
吉本浩三「憲法九条と日本の安全」17～28頁。
林啓介「身を捨ててこそ―小説『賀川豊彦』(一)―」29～36頁。

第6号（2008年12月24日：35頁）

田辺健二「賀川豊彦再評価―21世紀のグランドデザイナー―」2～4頁。
磯部浩二「鳴門市賀川豊彦記念館の設立前史」5～6頁。
賀川英治「鳴門市賀川豊彦記念館前史と賀川豊彦学会について」7～9頁。
香美博行「『宇宙の目的』を読んで」10～11頁。
三久忠志「国家の崩壊と開拓団の運命」12～14頁。

吉本浩三「憲法九条の父幣原喜重郎に学ぶ」15～24頁。

武知忠義「資料紹介 賀川豊彦と故郷徳島の自然」25～34頁。

第7号（2010年1月20日：48頁）

田辺健二「〈巻頭言〉賀川豊彦献身100年記念事業『徳島プロジェクト』の設立」2～3頁。

賀川純基「[個と群の形成]学級崩壊 家庭崩壊 社会の崩壊」4～8頁。

磯部浩二「賀川豊彦の親族とその系譜—賀川家・磯部家・森家・天羽家等について—」9～19頁。

林啓介「賀川先生に導かれた日韓の交流 賀川豊彦献身年シンポジウムインソウル」20～26頁。

香美博行「『天に帰る』を読んで」27～29頁。

吉本浩三「幣原喜重郎と吉田茂（戦前の部）日本の安全保障を考える」30～47頁。

第8号（2011年1月15日：50頁）

田辺健二「〈巻頭言〉いま、第二の幕末・開国のとき」2頁。

黒田信雄「賀川豊彦と幼児教育」3～13頁。

磯部浩二「マッカーサーと賀川豊彦」14～17頁。

牛田貞子「キリスト者賀川豊彦」18～20頁。

吉本浩三「幣原喜重郎と吉田茂（戦後の部）—日本の安全保障を考える—」21～40頁。

田辺素水「短歌五首」41頁。

本島等「広島よ、おごるなかれ—原爆ドームの政界遺産化に思う」42～49頁。

田辺素水「俳句抄」49頁。

第9号（2012年3月15日：127頁+1葉）

勘川一三「〈巻頭言〉創立十周年を迎えて」1頁。

田辺健二「〈巻頭言〉賀川豊彦再評価の拠点として」2頁。

飯泉嘉門「祝辞」3頁。

泉理彦「開館十周年を祝して」4頁。

近藤芳夫「開館十周年を祝して」5～6頁。

斎藤宏「賀川精神の継承を目指して」7～8頁。

久積育郎「創立十周年に寄せて」9頁。

賀川督明「社会に開かれた窓として」10頁。

矢野憲作「鳴門市賀川豊彦記念館の十周年を祝す」11～12頁。

「鳴門市賀川豊彦記念館創立前史」13～16頁。

「鳴門市賀川豊彦記念館の設立運動と展示準備」17～34頁。

「鳴門市賀川豊彦記念館創立以来十年の取り組み」35～64頁。

「座談会・インタビュー『賀川豊彦の思い出』65～102頁。

「追悼記」103～112頁。

賀川英治「〈特別寄稿〉賀川豊彦学会との出逢い」113頁。

武田正一「〈特別寄稿〉ベートベン『第九交響曲』—日本初演のプログラム—」114～116頁。

「これまでのあゆみ（年譜）」117～127頁。

「賀川豊彦関係事業展開図」1葉。

第10号（2013年1月25日：37頁）

田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ」2頁。

若松善英「ローガン牧師の縁者と墓地を訪ねて」3～4頁。

チャールス A・ローガン，ローラ A・ローガン加筆，若松善英訳「チャールス A・ローガン博士の回想」5～10頁。

三久忠志「C・A・ローガン博士と H・W・マイヤース博士が残したもの—賀川豊彦と二人の宣教師のとの出会い—」11～20頁。

磯部浩二「賀川先生のメッセージ」21～23頁。

香美博行「神の国運動まで」24～27頁。

松田祥吾「『淵田美津雄自叙伝』を読んで—ある海軍中佐の十字架—」28～36頁。

第11号（2014年2月28日：51頁）

田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ(二)」1～2頁。

戒能信生「関東大震災と賀川豊彦」3～4頁。

研究部代表・岡田健一「賀川豊彦と関東大震災—南海トラフ地震に備えて—」5～43頁。

研究部員。竹森幹雄「賀川豊彦と関東大震災—企画展を終えて—」44頁。

磯部浩二「賀川豊彦に学ぶ」45頁。

イエスの友会「イエスの友の五綱領の解説」45～46頁。

林啓介「ブラジルの賀川豊彦」47～49頁。

武知忠義「追悼文 矢野憲作氏を悼む」50頁。

第12号（2015年2月1日：38頁）

田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ(三)」2～3頁。

田辺健二「賀川豊彦の故里はどこか」4～6頁。

吉本浩三「『自殺せぬ理由』」7～9頁。

磯部浩二「カメ（益栄）の出自について」10～11頁。

賀川豊彦「阿波の聖徒ローガン先生—『創世記講義』に序して—（再掲）」12～14頁。

チャールス A・ローガン，ローラ A・ローガン加筆，若松善英訳・注「チャールス A・ローガン博士の回想」15～25頁。

香美博行「『神の国連動』」26～33頁。

伴武澄「今こそ憎悪を乗り越える時代—世界連邦運動の系譜を振り返って—」34～37頁。

第13号（2016年2月1日：29頁）

田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ(四)」2～3頁。

吉本浩三「晩年の賀川先生と生活を共にして」4～11頁。

- 小特集「私と賀川豊彦との出会い」12～20頁。
 黒田絢「賀川先生のこと」12～13頁。
 武知忠義「賀川先生との出会いから」14～15頁。
 若松善英「私と賀川豊彦との出会い」15～16頁。
 川井ふみ子「私と賀川豊彦との出会い」16～17頁。
 竹森幹雄「私と賀川豊彦先生との出逢い」17～19頁。
 藤田進「私と賀川豊彦との出会い」19～20頁。
 香美博行「『神の国運動』その三」21～23頁。
 田辺健二「〈研究余滴〉賀川豊彦の平和工作」23～24頁。
 山口壽男「小学校英語は本当に必要か？」25～28頁。

第14号（2017年2月1日：33頁）

- 田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ(五)」2～3頁。
 吉本浩三「平和の闘士賀川豊彦とノーベル平和賞」4～8頁。
 山口壽男「『妻恋歌』に曲付けして」9～10頁。
 竹森幹雄「東洋西洋の共通点から思いを賀川に馳せる」11頁。
 萩野芳夫「フィリピンから見た日本」12～16頁。
 三河耕二「新入りが自己紹介します」17頁。
 香美博行「『神の国運動』その四」18～21頁。
 吉本浩三「特別寄稿『アルフレッド・ノーベル物語』22～33頁。

第15号（2018年1月20日：32頁）

- 田辺健二「〈巻頭言〉市民教育のすすめ(六)―道徳教育の教科化―」5～6頁。
 綾目広治「〈巻頭論文〉今こそ賀川豊彦から学ばなければならない」7～9頁。
 小特集「鳴門市賀川豊彦記念館と私」10～26頁。
 大沢一彦「日本食研(株)会長大沢一彦と賀川豊彦先生との関係について」10～11頁。
 新居志郎「終生の恩人・賀川豊彦」12頁。
 堀俊朗「鳴門市賀川豊彦記念館と私」13頁。
 河崎良行「鳴門市賀川豊彦記念館と私」14～15頁。
 黒田絢「鳴門市賀川記念館と私」16頁。
 田淵豊「十五周年『雑感』」17～19頁。
 若松善英「私と賀川豊彦」20頁。
 藤田進「賀川豊彦記念館と私」21～22頁。
 岡田健一「わたしと賀川豊彦記念館」22～23頁。
 田辺健二「鳴門市賀川豊彦記念館と私」23～24頁。
 武知忠義「宗教についての瞑想」25～26頁。
 三河耕二「小説『死線を越えて』の伏字について」27～28頁。
 香美博行「『神の国運動』その五」28～31頁。

第16号（2019年1月20日：51頁）

- 田辺健二「〈巻頭言〉「市民教育のすすめ(七)―教育主義への挽歌―」 4～6頁。
 岡田健一「〈記念行事報告〉賀川豊彦生誕一三〇周年記念行事について」 6～12頁。
 藤田進「子どもたちの健やかな成長を願って『絵本の読み聞かせ会』」 13～15頁。
 川井ふみ子「『友愛読書会』は、何を読んでいるか？」 15～24頁。
 若松英士「イスラエルの歴史（談話会にて）」 24～36頁。
 黒田絢「賀川先生に遣わされて」 37頁。
 武知忠義「キリスト教についての私の軌跡」 38～41頁。
 三河耕二「小説『一粒の麦』の嘉吉さん（その調査） 41～45頁。
 香美博行「『神の国運動』その六」 45～50頁。

第17号（2021年月20日：95頁）

- 岡田健一「〈巻頭言〉「スペイン風邪禍の頃の賀川豊彦」 4～6頁。
 香美博行「『神の国運動』その7」 7～9頁。
 藤田進「『友愛の政治経済学』と賀川豊彦思想の現代的価値」 10～28頁。
 三河耕二「賀川豊彦と満州開拓」 29～38頁。
 岡田健一「滋賀県海老名市からやってきたオルガン」 39～46頁。
 田淵豊「聖地『阿波のまほろば』ドイツ兵『板東俘虜収容所』と賀川豊彦」 47～52頁。
 〈小特集〉「当記念館のボランティア活動について＝活動紹介とお願い＝」 53頁。
 藤田進「賀川の東京での活動」 54～61頁
 香美博行「『イエスの宗教とその真理』 62～63頁
 三河耕二「賀川を紹介するためにみんなで知識を蓄えよう」 64頁。
 本田久美子「『絵本の読み聞かせ会』の活動について」 64頁。
 川井ふみ子「『読書会』の活動について」 65頁。
 若松善英「『談話会』の活動について」 66頁。
 若松英士「聖書についての解説」 67～91頁。
 田辺健二「『死線を越えて』論 序説―『鳩の真似』との関連について―」 92頁。
 作曲・山口壽男「おいしいの子守歌～『涙の二等分』より～」 93頁。

第18号（2022年3月21日：128頁+1葉）

- 認定NPO法人賀川豊彦記念・鳴門友愛会理事長 勘川一三「〈巻頭言〉創立20周年を迎えて」
 2～3頁。
 徳島県知事 飯泉嘉門「祝辞」 4頁。
 鳴門市長 泉理彦「創立20周年を祝して」 5頁。
 鳴門市教育委員会教育長 三浦克彦「創立20周年を祝して」 6～7頁。
 賀川豊彦記念松沢資料館館長 黒川知文「『賀川研究と賀川伝道』―創立20周年に寄せて―」 8
 頁。
 神戸賀川記念館館長 馬場一郎「鳴門市賀川豊彦記念館創立20周年に寄せて」 9頁。

- 本所賀川記念館館長 服部榮「相互扶助の建設を目指して」10頁。
 コープこうべ協同学苑学苑長 浅田克己「創立20周年を祝して」11頁。
 徳島県勤労者福祉ネットワーク理事長 久積育郎「創立20周年に寄せて」12頁。
 JA 徳島中央会会長 中西庄次郎「鳴門市賀川豊彦記念館の創立20周年を祝して」13頁。
 とくしま生協理事長 大久保秀幸「『鳴門市賀川豊彦記念館創立20周年記念誌』に寄せて」14頁。
 「創立20周年記念事業計画」15～16頁。
 「座談会」17～41頁。
 田辺健二「創業と守成について」42～43頁。
 加山久夫「コロナ禍後の社会に生きる賀川豊彦」44～45頁。
 富澤康子「鳴門市賀川豊彦記念館創立20周年記念事業の地図作りに参加して」46～48頁
 ハイナール・ヘンシュケ「TOYOHICO KAGAWA 21世紀を生きる人々のための亀鑑」49～50頁。
 岡田健一「ご挨拶」51頁。
 「功労者」53～54頁。
 「鳴門市賀川豊彦記念館創立前後から10周年を振り返って」55～62頁。
 「追悼記」63～69頁。
 「創立11年目以後の取り組み」70～104頁。
 「創立11年目以後の展示品・寄贈品一覧」105～108頁。
 「寄附者一覧」109～110頁。
 「主な来館団体」111～112頁。
 「会員数・入館者数の推移」113～116頁。
 「これまでの歩み（年譜）」117～127頁。
 「認定 NPO 法人賀川豊彦記念鳴門友愛会役員一覧」128頁。
 「賀川豊彦年表」1葉。

※ ※

陸, 『賀川記念館総合研究所紀要』

第1号（2017年3月23日：111頁）

- 星野正興「農山村の現状と農村伝道」1～19頁。
 本田哲郎「愛することより大切にすることを求めたい」20～43頁。
 大谷隆夫「尊厳を伴った平和」44～54頁。
 岡山孝太郎「激浪の海に叫ぶ声」55～74頁。
 山口里子「性とキリスト教」75～107頁。

第2号（2018年7月10日：169頁）

- 竹田契一「発達障害の理解とその支援」1～49頁。

西岡有香「発達に課題のある子どもの子育てヒント」50～87頁。

小島祥美「海外にルーツを持つ子どもを育む地域の力」88～112頁。

側垣一也「子どもと家族に寄り添うために」113～165頁。

第3号（2018年2月20日：133頁）

川上直哉「東北ヘルプの活動から見た被災地の現状—震災後の日常の現状と課題—」1～37頁。

明石義信「原発事故あって『フクシマ』の今」38～65頁。

鈴木絹江「放射能に追われたカナリア—東日本大震災と障がい者の避難—」66～96頁。

木原浩信「現代社会とキリスト教」97～130頁。

第4号（2018年5月25日：163頁）

深田未来夫「私を生かす賀川豊彦の姿」5～19頁。

小林祥司「賀川豊彦とハンセン病」20～70頁。

小柳伸顕「賀川豊彦から何を学ぶか」71～110頁。

鍋谷由美子「ハルのタンポポ、花子のたんぽぽ」111～137頁。

李善恵「賀川豊彦と韓国」138～158頁。

第5号（2020年11月20日：190頁）

橋本真紀「地域の子育て家庭への支援の充実に向けて」1～32頁。

早川千晶「すべてのいのちはたからもの」33～59頁。

橋本祐子「幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育とは」60～100頁。

茂木美知子「子どもの“困”に寄り添うために」101～130頁。

橋本祐子「子ども同士のトラブルの理解と援助」131～186頁。

第6号（2020年7月1日：132頁）

梅村卓造「賀川先生と一麦、そして私」1～16頁。

岩田三枝子・富澤康子「賀川ハルさんってどんな人？」17～43頁。

藤崎盛清「農民福音学校と立体農業」44～59頁。

小南浩一「賀川豊彦と日本国憲法」60～107頁。

浅田克巳「賀川豊彦と生協」108～131頁。

（了）

※ ※

【附記】

本稿編集に向けた調査の過程で、同志社大学神学部研究室・イエス団賀川記念館研究所・賀川豊彦記念館松沢資料館・明治学院大学白金図書館・鳴門市賀川豊彦記念館ではたいへんお世話になった。特に記して感謝を申し上げたい。尤も、間歇的に進めた手作業であるため、誤記などが残存する可能性もあるだろう。

利用者各位からご助言をいただければ幸いです。

尚、この目録は2022（令和4）年度 JSPS 科学研究費補助金 22K00087 による成果の一部である。